

大分県「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」

報告書

(令和4～6年度)



大分県教育委員会

はじめに

「誰もが障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」の実現に向け、国においては、平成28年に、障がいを理由とする不当な差別の解消や合理的配慮の提供義務等を定めた「障害者差別解消法」が施行され、翌平成29年に、文部科学省に新たに「障害者学習支援推進室」が設置されました。また、文部科学大臣のメッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」では、障がいがある方が学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、支援体制の充実に取り組むことを各地方公共団体に要請しています。

このような情勢の中で、大分県としても障がいがある方が地域の中で学び続けることのできる場の確保が課題となりました。これまでは福祉施策として、パラスポーツやパラアートの振興のための様々な取組が展開され成果を上げてきましたが、生涯学習という観点からみると、取組は十分とは言えませんでした。

そこで、大分県教育委員会では、令和4年度から文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を受託し、「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」と銘打って、社会教育・特別支援教育・障がい福祉関係者の連携体制（地域連携コンソーシアム会議）を構築し、様々な方からご助言をいただきながら取組を推進してきました。

まず事業開始にあたり、障がいがある方や保護者・支援者の生涯学習に関するニーズや実態把握のための全県的な調査を行いました。その結果、卒業後の学びのニーズは高いものの、学びの場となる講座やイベント等に関する情報取得に困難を感じていることがわかりました。そのため、専用サイト「かたろうえ大分」を開設して情報の一元化に取り組むとともに、リーフレットを発行し、事業の周知を図りました。また、地域で学び、交流する場の拡充を図るため、公民館や青少年の家、大分大学等でのモデル事業等、具体的な実践を積み重ねてきました。

3年目にあたる今年度は、障がいがある方が毎週集い、交流しながら学べる拠点として「おおいたユニバーサルカレッジ」を、さくらの杜高等支援学校内に設置し、好評を博しています。

本報告書は、3年間の大分県の取組状況をまとめるとともに、各事業の創意工夫あふれる活動内容を紹介しています。ぜひ御一読いただき、今後の障がい者の生涯学習推進の一助にいただけると幸いです。

結びに、各市町村教育委員会関係各課の皆様をはじめ、当事業の実施及び本報告書の作成に御協力いただいた関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、大分県の取組が、障がいのあるなしに関わらず誰もが共に学び、生きる共生社会の実現の一步になることを祈念申し上げます。

令和7年3月

大分県教育庁社会教育課長 矢野 修

目 次

I 事 業 概 要

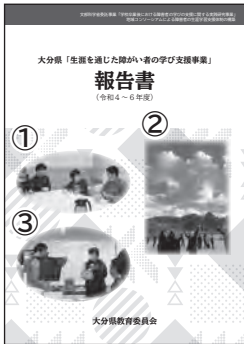
- 1. 令和6年度 文部科学省委託事業の概要及び大分県委託事業の概要・・・ 2
- 2. 事業実施日程（令和4～6年度）・・・ 4

II 具 体 的 取 組

- 1. 地域連携コンソーシアム会議 (1)概要（令和4～6年度）・・・ 8
 - (2)令和4年度実績・・・ 9
 - (3)令和5年度実績・・・ 10
 - (4)令和6年度実績・・・ 11
- 2. 調 査 研 究 (1)概要（令和4～6年度）・・・ 12
 - (2)実態及びニーズ調査（令和4年9月実施）・・・ 13
 - (3)実践事例集（令和6年3月発行）・・・ 14
 - (4)先進地視察・・・ 15
- 3. 実 践 研 究 (1)概要（令和4～6年度）・・・ 18
 - (2)モデル公民館・図書館・・・ 19
 - (3)大分大学生涯学習講座・・・ 28
 - (4)県立青少年の家ワンデイキャンプ・・・ 30
 - (5)特別支援学校出前講座・・・ 32
- 4. 普 及・啓 発 (1)概要（令和4～6年度）・・・ 34
 - (2)研修・・・ 35
 - (3)おおいたユニバーサルカレッジ・・・ 37
 - (4)「かたろうえ大分」及び動画教材・・・ 39
 - (5)「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」・・・ 40

III 成果と課題、今後の展望・・・ 42

IV 資 料・・・ 45



表紙の写真について

- ①おおいたユニバーサルカレッジ「茶道体験」
- ②さくらの杜高等支援学校出前講座「ドローン体験」
- ③大分大学生涯学習講座「絞り染め体験」

I

事業概要



1. 令和6年度 文部科学省委託事業の概要及び大分県委託事業の概要

令和6年度 文部科学省事業の概要

学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業

令和6年度予算
(前年度予算額)

1.36億円
1.41億円



現状・課題

- ・障害当事者にとって、生涯学習機会が少ない。どのような学習があるか知らない。
- ・自治体における障害者の生涯学習活動のため持続可能な体制が整っていない。
- ・障害/障害者の学びに関する理解を深めていくことが必要。
- ・「合理的配慮」の義務化（改正差別解消法）、「情報保障」の確保の法制化（情コミュ法・読書バリアフリー法）

事業内容

現状分析・課題整理

1. 生涯学習を通じた 共生社会の実現に関する調査研究 3百万円（3百万円）

テーマ別の調査研究を実施し、障害者の生涯学習に関する現状分析、課題整理を行う。
例：地方公共団体及び障害者本人を対象とした実態調査（R4）、重度重複障害児者等の生涯学習に関する実態調査（R3）など

実践研究

2. 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究 108百万円（116百万円）

課題解決に資する実践研究を実施。都道府県レベルの持続的な体制整備、市区町村と民間団体等との連携及び大学等による多様なプログラムの開発・実証を支援し、好事例やノウハウを蓄積する。

持続的な体制整備

(1)地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築
・都道府県（指定都市）におけるコンソーシアム形成。都道府県（指定都市）が中心となり、大学や特別支援学校、社会福祉法人、地元企業等が連携構築
単価：620万円/件 件数：10箇所 対象：都道府県、指定都市

多様な学びの機会創出

合意形成・協議等による
学習プログラムの開発・実施

生涯学習プログラムの開発・実施

(2)地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進
・市区町村と民間団体等との連携による多様な学習プログラムの開発・実施
・重度重複障害者向けの個別型学習プログラムも対象
単価：130万円/件 件数：30箇所 対象：市区町村、民間団体等

(3)大学・専門学校における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築
・大学等における専門性を活用した学習プログラムの研究・開発
・学生の参加による、若年層への職業訓練を推進するプログラムの実施
単価：150万円/件 件数：6箇所 対象：大学、専門学校

普及・啓発

3. 普及・啓発活動の強化 36百万円（22百万円）

障害者の生涯学習活動を広げるため、1.の調査結果や2.の実践研究の成果を発信/水平・垂直展開するコンファレンス等を実施するとともに、アドバイザーの派遣を行う。

(1)障害者参加型フォーラム

障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる共生社会の実現に向け、障害当事者・関係者等の参加を得て、障害者の学びに関するテーマ（先進的な学習プログラムやICTを活用した学び、読書バリアフリーなど情報保障等）にて対話を行うフォーラムを開催する。

(2)共生社会コンファレンス

障害者の学びの機会の充実を目指し、障害者本人による学びの成果発表や学びの場づくりに関する関係者の知見、障害者の生涯学習活動に関する研究協議を行う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国各地域ブロックで開催。来年度より、障害者団体や実施主体別等のテーマ別コンファレンスも開催。

(3)アドバイザー派遣

全国における障害者の生涯学習の活動を支援するため、新たに取組を実施・検討しようとする団体等に対して、要請に応じて、障害者の生涯学習推進に関する知見を有する人材をアドバイザーとして現地派遣を行う。

ゴール

「誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会」を実現する。

担当：男女共同参画共生社会学習・安全課

令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

37団体

- 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築（9団体）

- ・地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進（21団体）

- ◇大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築（7団体）

- 秋田県教育委員会
- 秋田県大館市
- 社会福祉法人北杜

- 北海道教育委員会
- 医療法人稲生会

- ◇公立大学法人長野大学
- ・NPO法人LomiLomiとこむソールコミュニケーションカレッジSCC松本校

- ・一般社団法人スナフキン・アンサンブル

- 宮城県教育委員会
- 仙台市

- 石川県教育委員会
- ・愛知県犬山市

- ◇学校法人金蘭学園千里金蘭大学

- 兵庫県教育委員会

- ◇国立大学法人愛媛大学
- ・包摂の新しい学び創造委員会

- 大分県教育委員会

- 宮崎県

- ◇高知県公立大学法人高知県立大学

- ・社会福祉法人一妻会
- ・有限会社Vivifala島ゆかこ

- ・相模原市
- ・特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所
- ・特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

- ◇学校法人船田教育会
- ・作新学院大学・作新学院大学短期大学部

- ・一般社団法人ケアの方舟
- 訪問カレッジ「Be Prau」

- ◇放送大学学園

- 東京都教育委員会
- ・NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
- ・一般社団法人みんなの大学校
- ・にじメディア制作委員会
- ・特定非営利活動法人障がい者スポーツクラブHIMAWARI
- ・一般社団法人真山舎
- ・株式会社CMU Holdings
- ・重度障害者・生涯学習ネットワーク

令和6年度 大分県事業の概要

生涯を通じた障がい者の学び支援事業 ～共に生き、学ぶ社会の実現に向けた生涯学習支援に関する実践研究～（予算：7,995千円）

「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」（国庫委託10/10）

これまでの
取組による
成果と課題

- 地域連携コンソーシアム会議の実施：社会教育・特別支援教育・障がい福祉関係者の連携体制の構築
- 実態・ニーズ調査及び大学や社会教育関連施設（公民館等）、特別支援学校における講座の実施
- 専用情報サイト「かたろうえ大分」開設：障がい者の学びに関するイベントや活動団体情報の集約・発信
- 県内への普及に向けた広報の工夫が必要
- 障がい者が参加しやすい学びや体験の機会は地域によって偏りがある

～共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援～

具体的
取組

I【推進協議会（コンソーシアム）の実施】（年3回） 290千円

（内容）関係機関のネットワーク化（情報や課題を共有し、取組について協議）
（構成）県教委、県障害福祉課、特別支援学校、大分大学、市教委、県社会福祉協議会、社会福祉法人、企業、障がい者支援団体、生涯学習関係団体

II【調査研究】 488千円

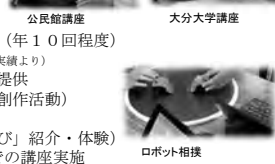
- 先進地の視察（千葉県、兵庫県等）により得た成果を取組に還元
- 【新】3年間の研究結果についてまとめた報告書を作成

III【実践研究】 2,389千円

- 大分大学による、知的障がい者を対象とした生涯学習講座の拡充（年10回程度）
公開講座（例）「アートワークショップ」「バラスーツ」（R5実績より）
- 社会教育関連施設における学習の場や学習プログラム、居場所の提供
・県立青少年の家での一般利用に向けた体験活動（自然散策、創作活動）
・公民館等での講座（スポーツ、調理実習、スマホ教室など）
- 特別支援学校出前講座（生徒・保護者を対象にした「卒業後の学び」紹介・体験）
- 【新】NPO団体等、民間との連携協働による市町村社会教育施設での講座実施

IV【普及啓発】 4,828千円

- 【新】障害平等研修（DET＝Disability Equality Training）の実施による支援者の資質向上
- 【新】恒常的な活動や交流を行う「学びの拠点」の設置
- 自宅学習のニーズに応じた動画教材作成・配信
- 「県内コンファレンス（実践交流会）」開催
- 情報発信…「かたろうえ大分」（専用ページ）の充実



【大分県の障がい者の状況】

- 障がい者数（93,702人）
（R3「県障がい福祉計画」「県障がい児福祉計画」より）
- 支援学校卒業予定者 181人（R5年度）
※毎年約200名が卒業

【根拠法令等】

- 障害者権利条約（H26年）
障害のある人が成人教育及び生涯学習において良質な教育を受けられる公平な機会を与えられる（第24条教育）
- 障害者差別解消法（H28年）
全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資する（第1条）

【重点：1年目】R4

- ①コンソーシアム体制整備
- ②調査研究 ③HP開設
- ④実践研究の実施

【重点：2年目】R5

- ①県下への普及（研修・HPの拡充）
- ②社会教育施設での講座拡充

【重点：3年目】R6

- ①関係者の連携体制の確立
- ②学校教育から社会教育への円滑な接続、保護者への普及啓発
- ③学びの拠点構築、県内全域での講座等の実施
- ④情報の一元化、アクセシビリティの保障

効果

- 障がい者の学びを支援する人材の育成
- 障がい者の有無に関わらず地域で共に学べる場や機会の拡大
- 持続可能な学びの体制の構築

令和6年度 文部科学省委託事業申請 取組概要

別添1-2（別紙1） 取組概要 地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

大分県教育委員会（所在地：大分市府内町3丁目10番1号）

事業名

生涯を通じた障がい者の学び支援事業

事業の趣旨・目的

- ・障がい者の生涯にわたる学びを支援するため、以下の取組を行う。
- ①教育と福祉等、分野横断的・持続的な関係者の連携体制の確立（コンソーシアム）
- ②学校教育から社会教育への円滑な接続、保護者への普及啓発（出前講座等）
- ③「学びの拠点」構築、県内全域での講座等の実施（モデル事業、青少年の家、大学）
- ④情報の一元化、アクセシビリティの保障（専用ウェブサイト、リーフレット）

事業実施体制・連携先

実施主体 大分県地域連携コンソーシアム
○大分大学 ○特別支援学校 ○大分県社会福祉協議会 ○大分県障害者社会参加推進センター ○芸術文化 ○スポーツ団体 ○当事者団体 ○企業
○行政（市教委、県教委（社会教育課、特別支援教育課）、県福祉保健部）
事務局 県教育委員会社会教育課（事業のコーディネーター的役割も担う）

事業内容

- I. 関係機関との連携体制の整備・確立
（内容）関係機関のネットワーク化（情報や課題を共有し、取組について協議）→地域連携コンソーシアム（推進協議会）実施…6月、11月、2月
（構成）県教委、県障害福祉課、特別支援学校、大分大学、市教委、県社会福祉協議会、市町村自立支援協議会、企業、障がい者支援団体、芸術・スポーツ関係団体
- II. 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究
○先進地の視察（宮城県、東京都等）により得た成果を取組に還元
○【新】3年間の研究結果についてまとめた報告書を作成し、3年間の結果を検証するとともに持続可能な事業のあり方を検討
- III. 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究
○大分大学における、知的障がい者を対象とした生涯学習講座の実施（年10回程度）
○社会教育施設（公民館、図書館、県立青少年の家等）における学習の場や学習プログラム、居場所の提供（8施設、計30回程度）
○特別支援学校出前講座の実施での生徒・保護者に対する啓発と「卒業後の学び」への誘導（7校～10校）
- IV. 障がい者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組
○【新】障害平等研修（DET（＝Disability Equality Training）研修）やモデル事業関係者研修の実施による支援者の資質向上
○【新】恒常的な活動や交流を行う「学びの拠点」の設置…毎週決まった曜日に集まり、利用者同士あるいは支援者と交流・学習する場づくりの支援
○自宅学習のニーズに応じた動画教材開発・配信…基本的な生活スキル、趣味やレクリエーション等幅広いジャンルの学習動画を作成
○「県内コンファレンス（実践交流会）」開催…好事例の共有や研究協議等を行うことで、障がい理解の促進や学びの場の担い手の育成・学びの場の充実に目指す
○情報発信…「かたろうえ大分」（専用ページ）の改修・掲載内容の充実

事業終了後の目指す方向性

- 「障がい者の生涯学習支援」の継続・発展→県として事業化する
- ①地域コンソーシアムの維持 ②特別支援学校出前講座の拡充
- ③ウェブサイト「かたろうえ大分」の継続 ④「学びの拠点」の定着
- 支援（アドバイザー派遣、講師紹介等）
- 各市町村等：研修・講座を事業化、県立青少年の家：一般利用として参加受入検討

その他

障がい者の生涯学習に関する専用サイト「かたろうえ大分」に県の取組や各種団体・イベント情報、学習動画を掲載



HPのQRコード



HP掲載の学習動画（他5本）

2. 事業実施日程（令和4～6年度）

令和4年度 事業実施日程

※数字は日付

月	コンソーシアム	調査研究	実践研究	普及啓発
6	第1回コンソーシアム会議(28)			
7				公民館テーマ別研修(14)
8				
9		実態およびニーズ調査実施		HP「かたろうえ大分」開設 公民館テーマ別研修(16)
10			かかぢワンデイキャンプ(1) モデル公民館講座(豊後大野)(4, 25)	
11	第2回コンソーシアム会議(16)	実態およびニーズ調査 報告書発行	かかぢワンデイキャンプ(7, 28) 大分大学生涯学習講座(12, 26) ここのえワンデイキャンプ(19) モデル公民館講座(豊後大野)(29)	
12		先進地視察(春日井市 コンファレンス)(10)	大分大学生涯学習講座(3, 10, 24) モデル公民館講座(豊後大野)(20)	
1			モデル公民館講座(豊後大野)(23)	HP「かたろうえ大分」 改修(ユニバーサル機能追加)
2	第3回コンソーシアム会議(22)	先進地視察(東北ブ ロックコンファレン ス)(11, 12)	大分大学生涯学習講座(23)	九州・沖縄ブロックコ ンファレンス開催(4) 特別支援学校出前講座 (13, 17, 22)
3				リーフレット発行(8)



第1回地域連携コンソーシアム会議



大分大学生涯学習講座「太極拳」
体をメンテナンスすることの大切さを学ぶ



かかぢワンデイキャンプ
助け合いながら
マイスプーンを作る利用者

令和5年度 事業実施日程

※数字は日付

月	コンソーシアム	調査研究	実践研究	普及啓発
6	第1回コンソーシアム会議(23)	先進地視察(紀の川市)(20)	モデル公民館講座(中津)(2)	「かたろうえ大分」改修・公開(28)
7			モデル公民館講座(豊後大野)(31)	公民館等講座支援者研修(由布市)(5) 公民館テーマ別研修(14)
8			モデル公民館講座(豊後大野)(29)	
9			かかぢワンデイキャンプ(22) モデル公民館講座(豊後大野)(26)	
10		先進地視察(神戸大学)(7)	大分大学生涯学習講座(8, 15, 22, 29) モデル公民館講座(由布)(12) モデル公民館講座(豊後大野)(31) かかぢワンデイキャンプ(26)	
11	第2回コンソーシアム会議(24)		かかぢワンデイキャンプ(9, 11) 特別支援学校出前講座(9, 14, 21) ここのえワンデイキャンプ(11) モデル公民館講座(由布)(16) 大分大学生涯学習講座(12)	
12			九重青少年の家(2) 香々地青少年の家(2) モデル公民館講座(中津)(1) モデル公民館講座(豊後大野)(5) 大分大学生涯学習講座(7, 21) モデル公民館講座(由布)(25)	
1		先進地視察(宮崎県コンファレンス)(27)	モデル公民館講座(中津)(15) 特別支援学校出前講座(15, 16) モデル公民館講座(豊後大野)(16)	コンファレンス(九州・沖縄ブロック)(21)
2	第3回コンソーシアム会議(22)	先進地視察(北海道コンファレンス)(2, 3)	モデル公民館講座(中津)(11, 18) 特別支援学校出前講座(13) モデル公民館講座(由布)(16) モデル公民館講座(豊後大野)(20)	動画教材制作、掲載
3		事例集発行(7)	モデル公民館講座(中津)(3)	



モデル公民館(豊後大野市)
初めての太鼓演奏を楽しむ



大分大学生涯学習講座「アートワークショップ」
休憩時間のクイズ大会で大盛り上がり



動画教材「大分の郷土料理を作ろう」

令和6年度 事業実施日程

※数字は日付

月	コンソーシアム	調査研究	実践研究	普及啓発
5	第1回コンソーシアム 会議(31)			公民館等講座支援者研 修(日田市)(23)
6			モデル公民館講座(中津)(2)	おおいたユニバーサル カレッジ(OUC)開講、 講座(1, 11, 18, 25) 公民館等講座支援者研 修(中津市)(24)
7			モデル公民館講座(国東)(6) モデル公民館講座(中津)(7) モデル公民館講座(豊後大野)(16) モデル公民館講座(由布)(22)	障害平等研修(19) 「かたろうえ大分」改修 OUC(9, 13, 16, 23, 30)
8			モデル公民館講座(国東)(3) モデル公民館講座(豊後大野)(6) モデル公民館講座(杵築)(24) モデル公民館講座(中津)(25)	OUC(3, 20)
9			モデル公民館講座(中津)(1, 29) モデル公民館講座(豊後大野)(3) モデル公民館講座(由布)(12) モデル公民館講座(国東)(21)	OUC(7, 10, 17)
10	第2回コンソーシアム 会議(15)		モデル公民館講座(豊後大野)(1) 特別支援学校出前講座(3, 19) モデル公民館講座(国東)(5) かかぢワンデイキャンプ(8, 15) モデル公民館講座(杵築)(12)	OUC(5, 8, 15, 22)
11		先進地視察(国立市) (15) 近畿ブロックコンファ レンス参加(オンライ ン)(27)	モデル公民館講座(中津)(3) モデル公民館講座(日田)(3, 24) モデル公民館講座(豊後大野)(5) かかぢワンデイキャンプ(6, 13) モデル公民館講座(由布)(11) モデル公民館講座(国東)(16) 大分大学生涯学習講座(23)	公民館出前講座(17) OUC(12, 19, 26)
12			モデル公民館講座(中津)(1) モデル公民館講座(豊後大野)(3) ここのえワンデイキャンプ(7) 大分大学生涯学習講座(7, 21)	公民館出前講座(15) OUC(10, 17, 24)
1		先進地視察(千里金蘭 大学コンファレンス) (12) 宮崎コンファレンス (オンライン)参加(18)	モデル公民館講座(中津)(5) モデル公民館講座(豊後大野)(14) モデル公民館講座(由布)(21) モデル公民館講座(杵築)(24) 特別支援学校出前講座(21, 28, 29, 31)	OUC(14, 21, 28)
2	第3回コンソーシアム 会議(19)		モデル公民館講座(中津)(2) 特別支援学校出前講座(4, 18) ここのえワンデイキャンプ(22) 大分大学生涯学習講座(8)	公民館等講座支援者研 修(由布市)(7)
3		報告書発行(7)	かかぢワンデイキャンプ(2)	

Ⅱ

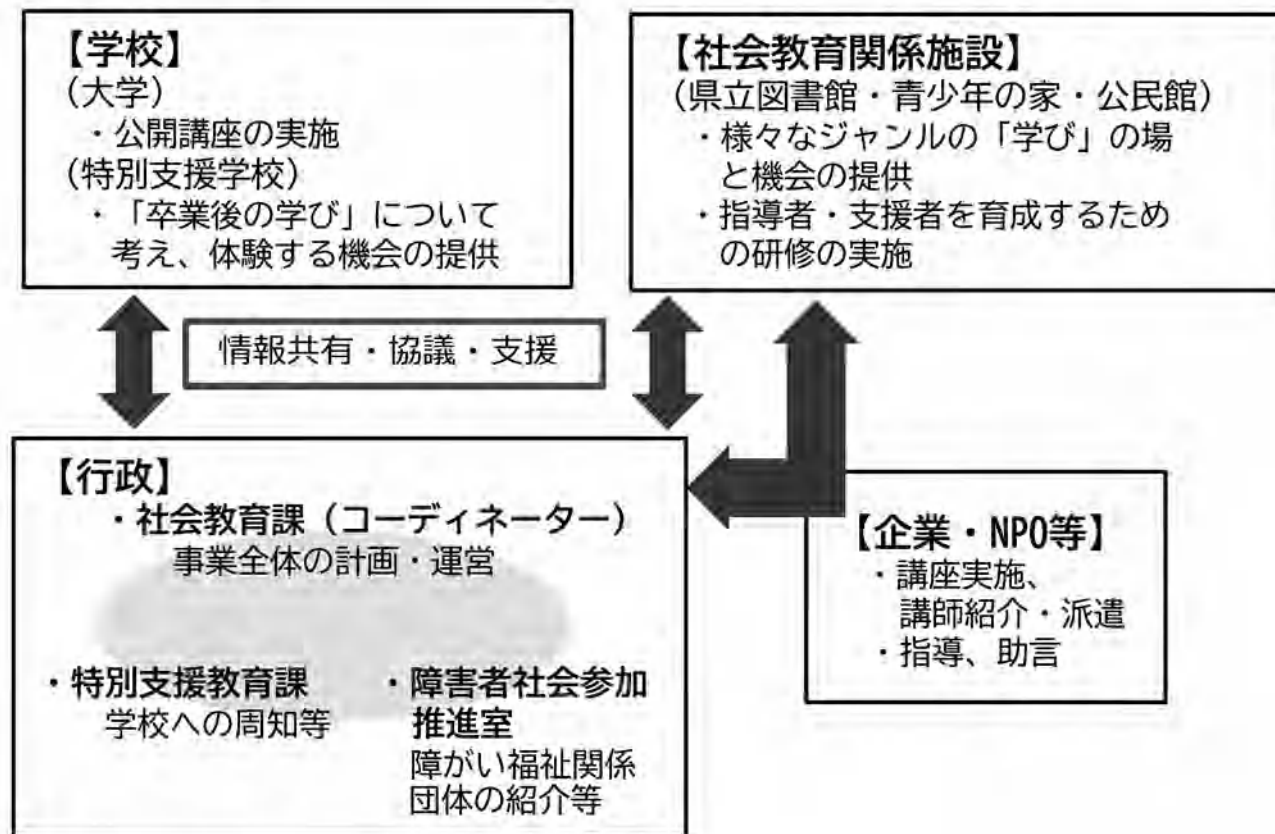
具體的取組



1. 地域連携コンソーシアム会議

(1) 概要（令和4～6年度）

事業実施体制



① 目的

学校卒業後における障がい者の学びに対する支援の充実のため、庁内外の関係部署・機関と協力できる連携体制を構築し、事業に対する意見や助言をもらう場という位置づけでコンソーシアムを立ち上げた（設置要綱はP46参照）。

② 委員選定

コンソーシアム委員の選定にあたっては、五里霧中の状態からスタートしたが、県福祉保健部障害者社会参加推進室が社会福祉関係団体や当事者団体を推薦し、委員委嘱依頼にも随行してくれたことで、「教育と福祉が連携して実施していく」という本事業の趣旨や意図が先方にも伝わりやすく、快く引き受けていただいた。また、いわゆる「充て職」ではなく、第一線で障がい者支援や特別支援教育に携わっている方々に依頼することにより、取組に対する具体的な助言をいただけたことがありがたかった。

③ 成果と課題

次頁以降に各年度の委員名と会議での主な意見を掲載している。意見に基づいた取組としては、

- ・就労支援施設を視察し、当事者と交流
⇒コンソーシアム会議で実現（令和5年度第2回）
- ・当事者が講師を務める研修や講座の実施
⇒モデル公民館で当事者を講師とした「絵手紙講座」「粘土工作講座」を実施（令和4～6年度）
⇒障害平等研修（DET）を実施（令和6年度）
- ・支援計画を作る「相談支援専門員」との連携
⇒公民館出前講座等の周知（令和6年度）

が挙げられる。また、委員間での個別の連携も広がりを見せている。（例：ソニー・太陽株式会社と宇佐市）

④ 今後の展望

今後も「点と点」（取組と取組、講師と講座、行政と団体等）をつないで「線」とし、「面」的展開としていくために、コンソーシアムを事業推進の最重要基盤として機能させていく必要がある。

(2) 令和4年度実績

【コンソーシアム委員名簿】

No	業態別	所 属	職 名	氏名
1	学 校	国立大学法人大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター	教授	岡田 正彦
2		国立大学法人大分大学教育学部	教授	衛藤 裕司
3		大分県立大分支援学校	校長	清末 直樹
4		大分大学教育学部附属特別支援学校	校長	後藤みゆき
5	社会福祉関係団体	社会福祉法人大分県社会福祉協議会 あすぴあおおいた	所長	加藤 寿代
6		大分県障害者社会参加推進センター	事務局長	高窪 修
7		社会福祉法人太陽の家 大分広域本部 健康支援課	課長	池部 純政
8	芸術文化・スポーツ団体	おおいた障がい者芸術文化支援センター	センター長	横山 勝也
9		大分県障がい者スポーツ協会	事務局次長	関 隆晴
10		ヨカたの（大分市立南大分中学校教諭）	代表	松尾 卓也
11		レッツダンスでガッツ元気の会（大分大学名誉教授）	主宰	麻生 和江
12	当事者団体	公益社団法人大分県手をつなぐ育成会	会員	藤近さと子
13		NPO法人自立支援センターおおいた	ジェネラルマネージャー	押切 真人
14			相談支援専門員	五反田法行
15		公益社団法人大分県精神保健福祉会	会長	神田 弘法
16	企業関係者	ソニー・太陽株式会社 人事総務部広報・CSR室	室長	佐藤 祐親
17	行政関係者	大分市教育委員会社会教育課	指導主事	工藤 幸子
18		別府市教育委員会社会教育課	社会教育主事	永尾 美保
19		大分県福祉保健部障害者社会参加推進室地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	主幹（総括）	関 隆晴
20		大分県教育庁特別支援教育課指導班	課長補佐（総括）兼指導主事	岡本 崇
21		大分県教育庁社会教育課	課長	森山 貴仁

【主な意見】

第1回：令和4年6月28日 議題：事業説明、調査項目及び実践研究の具体的内容について協議

- ・成人や特別支援学校高等部の生徒「本人に直接」情報が届き、イベント等に参加してもらえる仕組みづくりが大切である。学校教育から社会教育にうまくつなげるために、特別支援学校の先生方と連携する必要がある
- ・エクスクルージョン（疎外）しないことが必要。公民館の講座も、そもそも障がいがある方を疎外しない企画を考えることが大切。家庭や職場、作業所以外の居場所づくりをすすめられるとよい。
- ・2つの施設や団体がコラボする「協働」で可能性が開ける。指導者養成と確保も重要である。

第2回：令和4年11月16日 議題：事業進捗、実態及びニーズ調査結果報告、普及のための方策等

- ・モデル公民館（豊後大野市）は労力をかけて講座を実施している。特別支援学校の卒業生へのアプローチを続けてほしい。地元の協力者を4名も確保したのは初年度にしては多いが、確保の工夫も必要である。
- ・福祉＝サービス、教育＝活動の中に「学び」が欠かせない、という違いを念頭に置いて取り組むべきだ。施設に「来てもらう」だけでなくアウトリーチの手法も探りたい。
- ・利用者・保護者のニーズと社会的必要をそれぞれ反映させて組み合わせながらプログラムを作ると良い。

第3回：「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」と兼ねる

第4回：令和5年2月22日 議題：令和4年度事業報告、持続可能な取り組みに関する協議

- ・福祉の立場としては、公民館で講座ができるのはありがたいし、障がいスポーツ指導員も活用してほしい。
- ・公民館の職員等に、障害平等研修（DET）等、障がい者理解を深めるための研修を行うとよい。
- ・失敗を恐れず、何かトラブルがあったら、事務局や運営側だけでなく、公民館を利用されている方々と一緒に考えてお知恵をいただけると良いのではないかな。

(3) 令和5年度実績

【コンソーシアム委員名簿】※網掛けは新規委員

No	業態別	所 属	職 名	氏名
1	学 校	国立大学法人大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター	教授	岡田 正彦
2		国立大学法人大分大学教育学部	教授	衛藤 裕司
3		大分県立大分支援学校	校長	清末 直樹
4		大分大学教育学部附属特別支援学校	校長	友成 洋
5	社会福祉関係団体	社会福祉法人大分県社会福祉協議会 あすぴあおおいた	所長	加藤 寿代
6		大分県障害者社会参加推進センター	事務局長	高窪 修
7		社会福祉法人太陽の家 大分広域本部 健康支援課	課長	池部 純政
8		宇佐市自立支援協議会	会長	石川 博一
9	芸術文化・スポーツ団体	おおいた障がい者芸術文化支援センター	センター長	横山 勝也
10		大分県障がい者スポーツ協会	事務局次長	新 泰徳
11		ヨカたの（大分県立新生支援学校）	代表	松尾 卓也
12		レッツダンスでガッツ元気の会（大分大学名誉教授）	主宰	麻生 和江
13	当事者団体	公益社団法人大分県手をつなぐ育成会	会員	藤近さと子
14		NPO法人自立支援センターおおいた	相談支援専門員	五反田法行
15		公益社団法人大分県精神保健福祉会	会長	神田 弘法
16	企業関係者	ソニー・太陽株式会社 人事総務部広報・CSR室	室長	佐藤 祐親
17	行政関係者	大分市教育委員会社会教育課	指導主事	工藤 幸子
18		豊後大野市教育委員会社会教育課	課長補佐兼社会教育係長	神田 充
19		大分県福祉保健部障害者社会参加推進室地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	主幹（総括）	新 泰徳
20		大分県教育庁特別支援教育課指導班	課長補佐（総括）兼指導主事	岡本 崇
21		大分県教育庁社会教育課	課長	森山 貴仁

【主な意見】

第1回：令和5年6月23日 議題：事業説明、障がい当事者の意見を取り入れる仕組みづくりについて

- ・青少年の家や公民館での取組は、企画段階で当事者の声を踏まえると良い。自立支援協議会との連携を。
- ・陸上部の子たちが卒業後に活動する場がなくて困っている。スポーツに関する実践について、公民館と同じように障がい者を受け入れる体制を作してほしい。
- ・意外と場はあるがバラバラに存在している。プログラム同士、参加者と提供者、参加者同士など「つなげる」役割をコンソーシアム委員が務めていくことが大事だ。

第2回：令和5年11月24日【医療法人謙誠会 博愛病院で実施】

議題 事業進捗報告、バリアフリー読書サービス紹介、院内施設の就労者等の障がい当事者との協議

- ・単に活動を準備すればOKということではなく、学校教育の段階から「生涯学習や余暇活動につながる経験の保障」「保護者・支援者に余暇活動の意義についての理解・協力を得ること」が必要だと感じた。
- ・新聞が大事な情報媒体。事後報告ではなく、「やります！」という周知・募集も大切なのではないか。
- ・福祉事業所や施設の職員が、「生涯学習」について知り、考える機会（研修等）を創出するべきだ。
- ・「かたろうえ大分」の周知だけではなく、「検索してみる」「探してみる」機会づくり⇒体験会等が必要である。

第3回：令和6年2月22日【県身体障害者福祉センターで実施】

議題 令和5年度事業報告、全県的に取組を普及させるための「私のアクション」提案

- ・「地域格差」が今年度の課題。各市町村の取組を調査してまとめる必要がある。
→既存の活動と連携・協力をしてやっていくことが可能。
- ・単なる使い方教室ではなく、「スマホを使って資産を増やすよ」というような得をする講座をしたい。
- ・教育課程に位置づけて、「出前講座」も学校側から「してほしい」と言えるようにする。

(4) 令和6年度実績

【コンソーシアム委員名簿】※網掛けは新規委員

No	業態別	所 属	職 名	氏名
1	学 校	国立大学法人大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター	教授	岡田 正彦
2		国立大学法人大分大学教職大学院	准教授	高橋 徹弥
3		大分県立大分支援学校	校長	清末 直樹
4		大分大学教育学部附属特別支援学校	校長	友成 洋
5	社会福祉関係団体	社会福祉法人大分県社会福祉協議会 あすぴあおおいた	所長	宮脇 雅士
6		大分県障害者社会参加推進センター	事務局長	高窪 修
7		宇佐市自立支援協議会	会長	石川 博一
8	芸術文化・スポーツ団体	おおいた障がい者芸術文化支援センター	センター長	横山 勝也
9		元気の出るアート！実行委員会	事務局	吐合 紀子
10		大分県障がい者スポーツ協会	事務局次長	瀬尾 一哉
11		特定非営利活動法人大分県ソーシャルフットボール協会	理事長	伊達 俊介
12		特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・大分	スポーツプログラム委員長	西本 一雄
13	当事者団体	公益社団法人大分県手をつなぐ育成会	事務局長	佐藤 信久
14		NPO法人自立支援センターおおいた	相談支援専門員	五反田法行
15		公益社団法人大分県精神保健福祉会	会長	神田 弘法
16	企業関係者	ソニー・太陽株式会社 人事総務部広報・CSR室	室長	佐藤 祐親
17	行政関係者	日田市教育庁社会教育課	主幹（総括）	宗野 智志
18		宇佐市福祉課障がい者支援係	主幹（総括）	佐藤 高弘
19		大分県福祉保健部障害者社会参加推進室 地域生活支援・芸術文化スポーツ推進班	室長補佐（総括）	瀬尾 一哉
20		大分県教育庁特別支援教育課指導班	課長補佐（総括）兼指導主事	衛藤 章江
21		大分県立図書館	副館長兼学校・地域支援課長	馬場 尚登
22		大分県教育庁社会教育課	課長	矢野 修

【主な意見】

第1回：令和6年5月31日 議題：事業説明、障がい福祉と社会教育の連携のあり方について協議

- ・既存の公民館活動に障がいがある方が参加できるように仕組みづくりをする等、新たにハード面を整備するのではなく「今あるもの」を活用して、ソフト面を社会教育が提供する。
- ・精神障がいの方々は、支援者の後押しが必要。作品展等の出品や講座への参加で自信が回復できると生活がぐんと変わるので、芸術やスポーツ等、自信を持てる機会があるとよい。
- ・社会教育の側で熱くなる人を発掘・育成して、取組をすすめる、その人が異動しても続けられる、組織として持続可能な仕組みやシステムづくりをすすめると良い。

第2回：令和6年10月15日 議題：新規取組についての報告、バリアフリー図書サービス視察・体験

- ・（おおいたユニバーサルカレッジについて）よい取組をしているのにもかかわらず、参加者が少ないのはもったいない。活動が今の若い人たちのニーズにに応じていないのか、広報が足りないのか等理由を分析するとよい。
- ・（モデル図書館の取組について）障がいがある方が日常的に図書館を利用できる状況をつくる一歩として、事業所に出向いて本や講座を届けるというアウトリーチの手法を試してみるのもよい。

第3回：令和7年2月20日 議題：令和6年度事業報告、魅力あるプログラムづくり

- ・より多くの方に参加したいと思ってもらえるプログラムとは、①多様性と自由度の確保②定期的・継続的な取組③身近な場所から素敵な場所へ誘導する仕組み④チラシの工夫（対象を明示し、視覚に訴える）が有効であろう。
- ・特別支援学校出前講座の対象を広げ、保護者対象の講座も同時展開すると良い。
- ・教育委員会と地域の事業所同士の連携を図り、取組を組織的で広範なものにしていく必要がある。そのためにはコーディネーターが必要だ。
- ・コンソーシアム委員同士で「ご一緒する」ことで新たな活動の種を育みたい。

2. 調査研究

(1) 概要（令和4～6年度）

① はじめに

令和4年に取組を始めるにあたり、どこから手を付けてよいか、何をどうしたらよいか、文字通り暗中模索の状態であった。

そのため、障がいがある方の生涯学習に関するニーズや実態を把握するためにアンケート調査を、先行実践に学ぶために先進地視察を行い、事業実施のヒントやアイデアを得ることにした。

② 令和4年度の実践

ア. 実態及びニーズ調査

⇒対象等の概要および結果はP13及び巻末P46～48参照

イ. 先進地視察

(ア)「共生社会を目指す障害者の生涯学習プログラム開発・推進コンファレンスin春日井」参加(12/17)

広報、参加費、送迎の支援について質問したところ、

- ・ 広報：「こんなところがある」ということを青年期までに体験するのが効果的。特別支援学校、放課後デイサービス、福祉関係の事業所に声をかけていく必要がある。いったん参加すると口コミで参加が増えてきた。地道に継続することが有効である。
- ・ 参加費：寄付やボランティア、(大学の)研究費から拠出・継続が課題である。
- ・ 送迎：どういう支援をするとその方が自宅から駅に行けるか、駅から大学に行けるかという「生活スキル」を向上させることが大事だ。

という回答を得た。「何でも提供するのが大事」なのではなく、「生活スキルを上げる」という視点で行うことが、講座以外の生活にも生きるという新たな発見があった。

(イ)「共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック」参加(R5/2/12)

<成果>

障がいがある方の発表や意見表出の機会があり、健常者と障がい者がお互いの話を聞いたり交流したりする場の必要性を強く感じた。特にアートにおいてはそのような場を作りやすいと感じた。

「ごちゃまぜにする」というキーワードが何度もでてきて、大分県でもインクルーシブな学びの場を作っていきたいと感じた。

③ 令和5年度の実践

ア. 先進地視察

	日時	視察先	内容・成果
1	6/20	紀の川市 ①打田地区公民館講座 ②麦の郷ゆめ・やりたいこと実現センター	①打田地区公民館講座 ⇒効果的な声掛けと笑顔の大切さ ②夕刻のたまりば、やりたいこと講座視察 ⇒意思を尊重する場
2	10/7	神戸大学	近畿ブロックコンファレンス ⇒当事者が運営に積極的に参加
3	R6/1/27	宮崎県教育研修センター	宮崎県コンファレンス ⇒CMや著名人の起用等、広報効果が絶大
4	R6/2/3	北海道札幌学習センター ちえりあ	北海道コンファレンス ⇒「学びのインクルーシブ化」を目指す取組



< 神戸大学コンファレンス 交流しやすいフラットな会場 >

イ. 実践事例集の発行

⇒詳細はP14

④ 令和6年度の実践

ア. 先進地視察

⇒詳細はP15～17

イ. 報告書の発行

⑤ 今後の展望

視察により、先進的な取組を実施している団体や自治体の実践例と熱量に触れ、事業推進のヒントと意欲が得られる。

特に文部科学省事業の受託団体が実施する「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」は、実践の総まとめと関係者間の交流が可能であるため、市町村行政職員等にも参加をすすめていきたい。

(2) 実態及びニーズ調査（令和4年9月実施）

① 調査の目的

大分県に暮らす障がいがある方やその保護者、支援者等に対し、生涯学習に関する現状を把握するとともに、今後の県の取組に活かすことを目的とする。

② 調査対象

①特別支援学校高等部3年生、保護者、教職員	②公立社会教育関係施設
③市町村の生涯学習担当課	④障がい者就労支援施設

③ 調査の種類

A：本人（障がい当事者）向けアンケート	B：家族・職員・支援者等向けアンケート
C：社会教育施設対象アンケート	D：生涯学習担当部局用アンケート

④ 回収状況

調査期間	令和4年9月8日(木)～9月28日(水)			
調査方法	郵送による調査票の配布・回収			
調査の種類	A	B	C	D
配布部数	851	467	222	18
回収数	567	338	162	13
回収率	66.6%	72.4%	73.0%	72.2%

⑤ 調査結果（一部を抜粋してまとめたもの。巻末にも一部掲載。全文は「かたろうえ大分」に掲載。）

質問項目	実 態	ニーズ (当事者)	ニーズ (保護者・支援者)	分 析	今後の展開
学びの場	自宅（テレビ、ネット）、福祉サービス事務所、学校	社会教育施設（公民館、図書館等）、民間講座や教室も実態に比べて多い	同窓会、職場、社会教育施設が当事者に比べて高い	オンライン学習とともに自宅以外の場での学習の需要も高い	動画教材やアウトリーチ型講座の開発・実施
学びの内容	レクリエーション、スポーツ、仲間づくり	「個人生活・社会生活に必要なスキル」が実態に比べて多い	「社会生活に必要なスキル」が49.1%と高い	当事者と支援者それぞれのニーズに合わせた講座展開の工夫が必要	スポーツや芸術以外の、社会的スキル向上に資する講座の開発・実施
学びに必要なもの		・ 仲間や相談相手 ・ 活動に関する情報	・ 会場までの送迎 ・ 指導者、ボランティア	当事者や保護者が安心して学びの場に参加できる環境づくりと情報提供が必要	情報が当事者に直接届くような仕組み作り（HP、リーフレットの充実と広報）

⑥ アンケート結果の活用

- ①自宅での学習ニーズの高さを鑑み、学習動画を6本製作し、「かたろうえ大分」にアップした（R5）。
- ②スマートフォンの使い方やお金の管理（ライフプラン）に関する講座を公民館等で実施した（R5，6）。
- ③「かたろうえ大分」への情報提供依頼先を拡充し、紙媒体での情報提供ツールとしてリーフレット「生涯学習のとびらをひらこう！」を発行した（R5）。

(3) 実践事例集（令和6年3月発行）



<表紙>

① 目的

障がいがある方の学びや余暇活動に関する先進的な実践を行っている団体や個人の事例を収集し公表することで、これまでの実践の成果を検証するとともに、本事業および障がい者の学びについて普及拡大を図る。

② 内容

令和5年度以前に実施した講座やプログラムに関する内容・実施方法等

③ どのような人に活用してほしいか（対象）

障がいがある方の生涯学習の取組を始めようとしている行政職員や公民館職員、社会教育関係者等

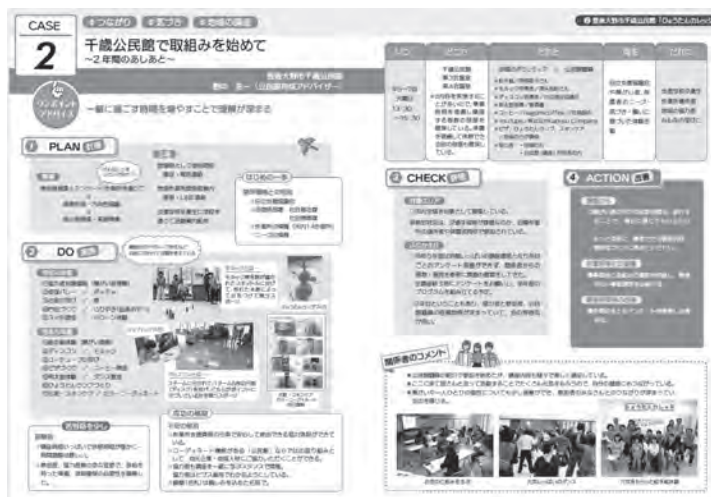
④ 編纂にあたりこころがけたこと

読んだ人が実践の具体的なイメージを描けるように、講座のPDCAサイクルを明示した。また、苦勞した点や改善が必要な点についても掲載し、「うまくやること」より「失敗を恐れず初めの一步を踏み出すこと」の大切さが伝わるようにした。



<事例集の活用法についての説明>

⇒事例集はこちら



<事例集の一部抜粋(豊後大野市千歳公民館)>

(4) 先進地視察

① 国立市

報告書	
職名（主任社会教育主事） 名前（中野 美子）	
視 察 日	令和6年11月14日(木)～11月15日(金)
訪 問 先 (住 所)	文部科学省（東京都千代田区霞が関3丁目2-2） 国立市公民館（東京都国立市中1-15-1）
視 察 日 程	11/14(木) 13:30～16:00 文部科学省「障害者の生涯学習推進に関する担当者連絡会」 11/15(金) 9:30～11:30 国立市公民館視察、眞山舎代表 土屋一登氏 講演
対 応 者	生涯学習・社会教育推進班 主任社会教育主事 首藤 亜希子 中野 美子
視 察 内 容	11/14■文部科学省説明－障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について－ ・施策の動向・調査研究分析・実践研究・コンファレンス・アドバイザー派遣について ・大臣表彰・読書バリアフリー関係 ■講話「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について －国立市公民館「コーヒーハウス」の事例を中心に－ ・障害者の生涯教育とは何か ・地域連携と障害者の生涯学習の推進 11/15■国立市公民館視察 ・眞山舎代表 土屋一登氏 講演 ・公民館の青年教育・障害者教育の歴史と現在の説明 ・「キョウドウを生きる暮らし」を目指す「リカバリーの学校@くにたち（RGK）」の取り組み紹介 ・施設見学
成 果	・個人の学習ニーズに適切に応じ、「誰一人置き去りにしない」ことを目指して公民館講座を実施している。 ・青年教育については、1950年代の集団就職の青年を対象に始まり、それが発展して障害者教育につながっていった。時代に応じて現在は中高生の学習支援、不登校やひきこもりの支援に発展している。 ・公民館だけでは取り組むことが難しい課題については、福祉や他団体等と連携・協力していく必要がある。 ・リカバリーの学校@くにたちの講座は、疾患や生きづらさを抱える方を対象に対話を中心にして「充実した人生」を歩もうとするプロセスで、参加した方の変容等教えていただいた。受講する前は消極的だった方が、プログラムが進むうちに新たな企画の中心になったり、人前で自己開示ができるようになったりしたということである。 ・受講者の変容については、受講の過程において対話を中心にしたこと、自己決定権を与えること「変わることを求めないこと、受け入れることが大切だということ」を学び、今後の事業に生かしていきたいと感じた。
そ の 他 (写真等)	 「喫茶わいがや」の看板 気軽に利用できるように 案内されている。  「喫茶わいがや」の店内 車いすの方も利用しやすいよう テーブルの高さも工夫されている。

②千里金蘭大学

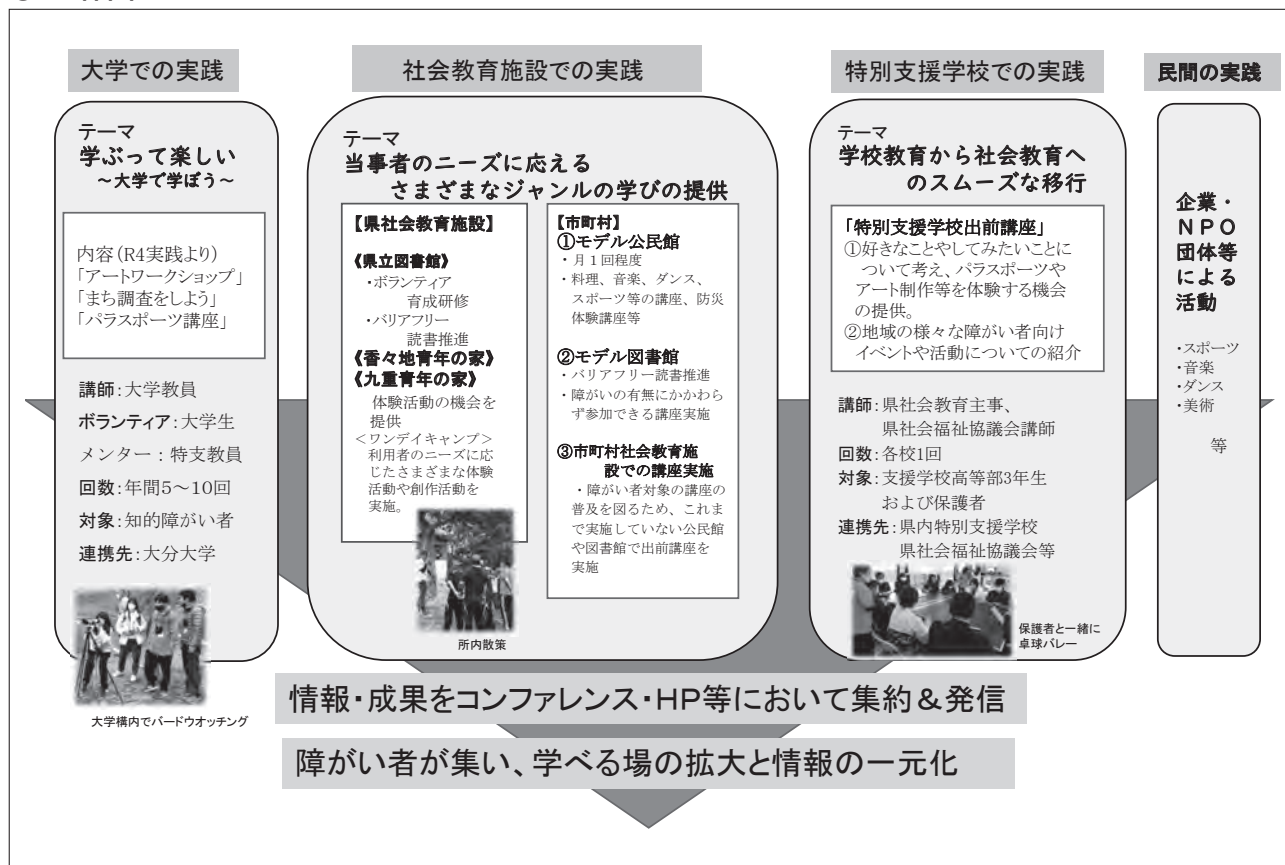
報告書			
職名（主事） 名前（益田 航大）			
視 察 日	令和7年1月12日(日)		
訪 問 先	千里金蘭大学	住 所	大阪府吹田市藤白台5丁目25-1
視 察 日 程	1/12(日) 千里金蘭大学開催「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」に参加		
対 応 者	大分県教育庁 社会教育課 主事 益田 航大		
視 察 内 容	■文部科学省説明－障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について－ ・施策の動向・調査研究分析・実践研究・コンファレンス・アドバイザー派遣 ■四大学の合同活動報告、ディスカッション ・大阪信愛大学、静岡大学、長野大学、愛媛大学（各大学20分程度活動報告） ・各大学の講座状況 ・大学講座の意義（大学という立地性、講義の専門性、学生ボランティア） ・今後の課題・持続可能性（受講者の応募、運営資金、他大学への展開） ■講演「学ぶことは生きること－院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと－」 副島 賢和（昭和大学大学院 保健医療学研究科 准教授） ・子どもありきの学習するため、子どもの声を聴く ・能動的学習のS C H。Safety、Challenge、Hope ■シンポジウム ・企画実行委員：岡崎 伸 氏（大阪市立総合医療センター医師） 平賀健太郎 氏（大阪教育大学教員、当日は体調不良のため欠席） ・受講生(本人・家族)：田中 美紀（細胞性髄膜炎のタナカセイタ氏のお母様） ・学生ボランティア：奥田 千華 氏（千里金蘭大学4年、看護学部看護学科） ■分科会、交流会 ・当事者と語る・学生ボランティアと語る(選択)・支援者と語る		
成 果	【他県の大学講座の活動報告について】 ・大阪は4大学合同で運営することで、事務負担軽減や効率化を図っていた。例えば、千里金蘭→事務関係、大阪教育大学→カリキュラム作成・学生ボランティア講習、藍野大学→受講生の健康観察・アンケート、大阪信愛大学→会場調整・受講生への連絡等各大学の強みを生かしていた。（2023～2024年） ・静岡大学は、2005年から本事業のような講座を実施していた。30～40人いた受講者がコロナで減少してしまった。オンデマンド配信を行ったところ好評であった。 ・長野大学はSTEAM教育の要素を入れた障がい者の学び直しをテーマに取り組む。参加者に知的障がいのある方も多いことから「記憶」「再生」に依らない学びを目指している（2023～2024） ・愛媛大学は、オープンカレッジだけではなく、訪問カレッジ（自宅、病院、通所施設等）に力を入れている。2019年から取組みを始めた、県内に広まってきている、現在は県と同様に高等支援学校との接続に力を入れている。（2019～2024） 〈まとめ〉 ・どの大学でも大学講座である意義を意識し、具体的には専門的な講座（先生）があり、大学という場所（例えば、大講義室）で講義し、ほかの大学生（学生ボランティア）と共に活動できることを大切にしていた。一方で、受講生に応じた、登校・リラックスできる場所の提供・講座のプログラ		

成 果	ムを整備する必要がある、通常の大学の講義に比べ、多くの人手・時間がかかる印象をうけた。ディスカッションの中でも、今後の課題としてどの大学でも①受講者の確保（福祉分野との連携）②運営側の持続可能性（財源、他大学への広がり、ボランティアスタッフ）については頭を悩ませていた。 オンデマンド活用、STEAM、訪問カレッジ等、学校卒業後における障がい者の学び支援に資する大学講座は多岐にわたっていた。大分県でも県内の大学の特性を強く生かすとともに、本事業目指すものを意識した講座内容・実施形態を模索していく必要があると感じた。 【副島賢和氏の講演について】 ・ 病気や障害のある子どもたちに教育の必要性を訪ねると、多くの大人が「必要だ。たとえ病気があっても、教育は大切」という。しかし、そのような子供たちを目の前にすると「元気になったらおいで。今はゆっくり休んでね」と反対のことを言う。 ・ そのような言葉は、慢性の病気を抱えていたり、障害があったり、何度も入院を繰り返している子の学びの機会を奪ってしまう。 ・ 病気を抱えた子どもたちの教育を「病弱教育」という。様々な制度があり、病弱身体虚弱の教育を補償しているが、制度と実態が乖離していることも多い。どんなに短いかかわりであったとしてもSafety(安全)、Challenge(挑戦・選択)、Hope(将来の希望)の、SCHoolの最初の三文字を大切に教育に携わる必要がある。 ・ 子どもたち家族のために医療・福祉・教育の分野で何ができるか考えるために、子どもを真ん中に置くだけではなく議題の中心においているものが消失する中空構造にならないよう、子どもも一員となれるモデルを構築していく必要がある。 【学生ボランティアの集め方・広報の仕方】 大分県でも、大学講座において学生ボランティアを活用しているが、なかなか参加者が集まらない実態がある。そこで、分科会・交流会で大阪の4大学（R5ボランティア数35名。教育学部、看護学部学生・院生）の質問した。以下、回答 ・ ボランティアが授業の単位になっていると参加しやすい。例えば、教育学部では、教員になるためにボランティアの単位が必要である。また、看護学部では障がい者や医療的ケア児と関わった経験があると就活の際に有利に働いたりする。ボランティアをする積極的な理由がないとアルバイトや飲み会の優先順位に負けてしまう。 ・ 大学通信に載っていると、興味がある人が参加してくれる。 ・ 距離があると、面倒に思ってしまう人もあるので、可能な限りボランティア会場自体が大学であるとありがたい ・ ボランティアを行う時間が、大学の授業の空きコマであると参加しやすい。同じ大学の同じ学部の空きコマは大体同じ。友人が、参加しているのを見れば、興味が出てくる人もいるかもしれない。
そ の 他 (写真等)	 会場の様子  オープンカレッジ成果物

3. 実践研究

(1) 概要（令和4～6年度）

① 全体図



② 目的

大学及び公民館・青少年の家といった社会教育施設、特別支援学校でイベントや講座をモデル事業を展開するには以下の目的がある。

- ・取組を全県的に広げる
- ・障がいがある方のニーズや意見を把握し、フィードバックして改善に生かす
- ・社会教育関係施設職員や講師・ボランティア等支援者の障がい理解を深め、スキルを向上させる

③ 取組の拡充

3年間で、着実に取組は拡大してきた。

	R4	R5	R6
モデル公民館・図書館（館）	1	3	6
大分大学生涯学習講座 受講者（のべ人数）	20	31	34
青少年の家ワンデイキャンプ 実施（回）	4	8	7
特別支援学校出前講座 実施（校）	3	5	7

④ 成果と課題

モデル公民館・図書館は地域人材の活用や地域団体との連携によりそれぞれ意欲的に講座を計画・実施しており、継続を望む受講者は多い。大分大学や青少年の家でのプログラムも同様である。

ただし、現在は「研究」ということもあり受講料は原則無料にしている取組がほとんどだが、持続可能という視点からみると、受益者負担の原則を検討しなければならないだろう。

また、指導者・支援者の養成とボランティアへの対価の保障について早急に考える必要がある。

⑤ 今後の展望

モデル事業（原則3年間）を終えた後、それぞれの事業主体が自走して取組を継続できることが最も重要である。その際、県は伴走支援を行っていく必要があるだろう。また、実績を積んだ事業主体がアドバイザーとして取組の普及に貢献できるような仕組みづくりも求められる。

(2) モデル公民館・図書館

日田市東有田公民館（令和6年度）

① はじめに

日田市は県西部、北部九州のほぼ中央に位置し、人口は約61,000人である。「一般財団法人日田市公民館運営事業団」が平成23年度より市内地区公民館の指定管理事業を行っている。

令和6年度は東有田公民館で事業を実施した。

② 令和6年度の取組

ア. 第1回講座

目的：ボッチャを通じた「健康的な生活への意識向上」に繋がる学びの機会の提供及び参加者同士の交流、意見交換の場とする。

日時：令和6年11月3日(日) 10:00～13:00

講師：東有田ステップ教室 濱田つや子氏他6名

社会福祉法人すぎのこ村 Beeすけっと

センター長 石松聡美氏

内容：ボッチャ体験、アンケート、振り返り

参加者数：障がい者10名 公民館職員17名

（うち館長8名） 講師8名 **計35名**

<振り返り：公民館職員>

- ・ボッチャはルールが簡単で分かりやすいので初めての活動としては適当だった。
- ・靴の履き替えに困難がある方がいた。事前にイスを何脚か置いておいた方が良かった。
- ・知的障がいの方の行動に戸惑い、声掛けをするべきかどうか困った。

<感想・助言：石松氏>

- ・障がい者にとってこのような取り組みは大切な命を守ることに繋がる。今日の第一回は大きな「一歩」となった。
- ・障がい者特有の言動に対しては、本人に声掛けをしてほしい。「人権に配慮」などと難しく考える必要はない。



< ボッチャを楽しむ参加者のみなさん >

イ. 第2回講座

目的：料理教室を通し調理に関する知識理解を深め、生きるための基本となる食に興味を持ってもらい、参加者のより良い生活に繋がる学びの機会を提供する。

日時：令和6年11月24日(日) 10:00～13:00

講師：東有田地区食育推進協議会員 4名

社会福祉法人すぎのこ村 Beeすけっと

センター長 石松聡美氏

内容：料理教室（石垣饅頭・へこ焼き・おにぎり）、アンケート、感想発表、振り返り

参加者数：障がい者12名 公民館職員17名

（うち館長4名） 講師5名 **計34名**

<振り返り：公民館職員>

- ・事前の情報提供のおかげで不安なくできた。
- ・「いっしょくた」に考えず、一人ひとりに向き合うことが必要だと気付いた。
- ・地域で行うときの支援体制づくりが大切。

<感想・助言：石松氏>

- ・様々な人と出会うことで様々な障がいがある人がいることが分かる。出会いが大事。
- ・「障がい者だから」と子ども扱いすると本人もあまり気持ちの良いものではない。
- ・災害時に公民館に安心して来れるようになることが「命を守る」ことにつながる。



< みんなで楽しく「いただきまーす」 >

③ 成果と課題

公民館の講師やアドバイザーの石松氏等、地域人材を活用した講座は、参加者からも「楽しかった」「また行きたい」と好評であった。また、職員研修の場として、振り返りを丁寧に行い、支援のスキル向上を図った。

来年度以降、回数や実施館を増やしていくための協力体制づくりが必要である。

国東市（令和6年度）

① はじめに

国東市は県北東部の国東半島東部に位置し、人口は約25,000人である。今年度より、モデル公民館事業を実施している。

② 事業概要

目的：共生社会の実現に向けた、障がい者の生涯学習支援を目的とする。

内容：学校卒業後の障がいのある方の学びの場を提供するため、令和6年6月～2月の間に、5回程度、障がいのある方を対象にした公民館講座を開催する。

対象：国東市内の障がい者就労支援施設利用者

①NPO法人 輝くピアホーム ②社会福祉法人 秀溪会 秀溪園 ③合同会社 ホウエン ④株式会社 国東半島 松本農園 ⑤社会福祉法人 共生荘 障がい者サポートセンター三角ベース

③ 令和6年度の取組

ア.取組

	日時	内 容	会場	参加者
1	R6/ 7/ 6	多肉植物の寄せ植えをつくらう	武蔵西地区公民館	秀溪園利用者10
2	R6/ 8/ 3		三角ベース	三角ベース利用者11
3	R6/ 9/21		国東中央公民館	市内全障がい者就労支援施設利用者
4	R6/ 10/ 5	卓球バレーをやってみよう	国東市隣保館	9/21： 6 10/5：13
5	R6/ 11/ 2	多肉植物の寄せ植えをつくらう	国東中央公民館	ピアホーム利用者14
6	R6/ 11/16	楽しく体を動かそう！3B体操	国東中央公民館	市内全障がい者就労支援施設利用者13



< 多肉植物の寄せ植え 自分で選んで植えます(第1回) >

イ.企画・運営上の工夫

国東市は広域に事業所等が存在するため、中央公民館での実施を基本としつつ、武蔵西地区公民館や隣保館に出前講座を行うというアウトリーチ方式を採った。中央公民館の講座では市のバスで送迎を行った。

また、障がい理解促進と一般講座での実施を見据え、講師には普段公民館で講師を務める方をお願いした。

④ 成果と課題

<多肉植物の寄せ植え>

- ほとんどの参加者が講師の話をよく聞き、集中して制作していたため、予想よりも完成が早かった。
- 時間や難易度もちょうど良いとの回答が多かった。
- 講師、補助員の教え方についても、「わかりやすくよかった、またやりたい」との評価が目立った。
- 何でもいのでまた講座に参加したいとの回答もあり、学びに対する意欲の高い人がいることが分かった。

<2回目以降、作業全体を把握しやすいよう、作業手順を掲示した（前回の指摘による）>

<卓球バレー>

- 講師との打ち合わせで、ルールよりもある程度自由なプレーで楽しんでもらうことを重視した。
- 未経験者の中には手を出しにくそうにしている人もいた。練習用コートで少し慣れてもらおうとよかった。

<3B体操>

- 運動への関心の高さが感じられた。
- 4割の参加者がやや難しいと感じたようである。ただ、もっとやりたかった、次回も続けてほしいとの意見もあり、少し難しいことに挑戦する楽しさを感じてもらえたのであればよかった。



< 3B体操 楽しく汗をかきました(第6回) >

⑤ 今後の展望

来年度以降も引きつぎ事業を実施予定である。障がいのある方とない方が共に学べる講座も検討したい。

杵築市立図書館（令和6年度）

① はじめに

杵築市は県北東部の国東半島南部に位置し、人口は約27,000人である。今年度より、県内公立図書館として初めてモデル事業を実施した。

② 事業概要

目的：障がい者の学びの場を提供するとともに学びの場の環境整備を行う。

課題：施設のバリアフリー対応はあるものの、障がい者の利用はあまり多くない。

共に学ぶための場として、職員のスキルアップや資料の充実、障がいの程度に応じた講座やイベント等、幅広い企画とサービスの構築が必要と考える。

③ 令和6年度の取組

ア. 第1回講座

日時：令和6年8月24日（土）14:00～15:00

講師：原野彰子氏 内容：絵手紙教室

参加者数：14名（うち障がい者8名）

成果：障がいのある人もない人も空間と時間を共有して行う講座は図書館では初めての試みで、従前のイベントと同じ対応でよいか懸念があったが、いざはじめてみれば講師の原野先生や図書館スタッフによる知的障がいがある方への自然な声掛けにより、スムーズにすすめることができた。

アンケート結果では、「障がいがある方を含め誰でも参加でき皆で楽しめるイベントがあればまた参加したい」という意見があった。



＜ まずは線の練習から！皆集中してます ＞

イ. 第2回講座

日時：令和6年10月12日（土）

午前：10:00～12:00

午後：13:30～15:30

内容：バリアフリー映画上映

バリアフリー図書の展示、紹介（10/2～28）

参加者数：

午前の部10名（障がい者3名）「天使のいる図書館」

午後の部12名（障がい者1名）「桜色の風が咲く」

成果：これまで字幕や音声ガイドありの経験がない健全者も、特に抵抗なく映画を鑑賞し、感動して涙を流している方もいた。良質の映画を提供することで、障がいのあるなしを意識することなく豊かな人間性を醸成する手助けになるのではないかと。

映画を上映する前には、バリアフリー図書の紹介をして一般の方にも大活字本やLLブック、布絵本、しかけ絵本、デジ図書について知ってもらおう良い機会となった。



＜ バリアフリー図書の説明を聞く参加者 ＞

ウ. 第3回講座

日時：令和7年1月24日（金）13:30～14:30

講師：藤松美潮氏 内容：ミニミニオリンピック

参加者数：25名（うち障がい者19名）

成果：市内障がい者施設に声掛けし、公民館講座の講師をしている藤松美潮先生の指導のもと、図書館オリジナルルールでレクリエーションを行った。

スタッフが臨機応変に対応し、途中で参加を中断した方もいたが、本人が参加したい競技だけ参加してもらおうなど強制せず、施設の方に声掛けしてもらいながらトラブルもなく実施できた。

④ 今後の展望

これからの図書館は「サードプレイス」としての役割も求められることになることを想定し、個人や団体それぞれの多様なニーズに応えられるよう、これまでの図書館活動ではなく、一歩進んだスキームを持つことが大事であると考えている。

中津市生涯学習センターまなびん館「まなびば」（令和5～6年度）

① はじめに

中津市は大分県の最北部に位置し、人口は約81,000人である。令和5年度より中津市生涯学習センターまなびん館で事業を開始して2年目になる。

② 令和5年度 of 取組

ア. 現状

全ての社会教育施設は障がいの有無に関わらず、すべての人に対して「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる生涯学習の場をつくるべきだが、実態として障がいがある方の利用はほとんどなく、障がい者だけの団体利用はゼロだった。

イ. 事業をはじめるにあたり

令和5年度に県の「障がい者の学びを支援するモデル公民館事業」を受託することを決め、まずは情報収集を行った。市の福祉部局や市社会福祉協議会等に話を聞き、障がい児・者余暇活動支援事業「てくてく」（市社会福祉協議会の事業）を見学した。その指導員から「発達障がい児親の会」を紹介され、その例会に出席して、学習ニーズの把握に努めた。

- ・公民館などの施設は他の利用者への迷惑を考えて利用しづらい。
- ・卒業後に職場と家の往復だとストレスがたまる。
- ・支援学校での学習や経験が卒業を機に途切れてしまうのが残念だ。
- ・将来自立して健康な生活を送ってほしい。生きる基本は食なので食生活に興味を持ってほしい。

といった意見を参考に、包丁や火を使わず、炊飯器やホットプレートでおいしくできる「かんたん料理」講座を実施することにした。



< ホットプレートでお好み焼きをつくります >

ウ. 取組

	日時	内 容	参加者
1	R6/ 2/11	かんたん料理教室 ①チキンライス ②ハンバーグ ③ケーキ	当事者：8 保護者：8 講師：1 スタッフ：8
2	R6/ 2/18	かんたん料理教室 ①チキンカレー ②お好み焼き ③きな粉もち	当事者：9 保護者：9 講師：1 スタッフ：7
3	R6/ 3/ 3	かんたん料理教室 ①いなりずし ②手巻きずし ③からあげ ④ホットケーキ	当事者：9 保護者：9 講師：1 スタッフ：7

参加費（材料代）を徴収している。（500円程度）

エ. 成果と課題

- ほとんどの参加者は自力で調理ができたので、保護者は別室で情報交換の場を持つことができた。
- 参加者の中にリーダー的な存在が生まれ、調理の仕方を他の参加者に教えたり、「いただきます」やお礼の言葉などを代表して言ったりした。
- 3回の活動ごとにふり返しを行い、参加者も皆の前で感想を発表することができた。
- 学んだ料理を、家庭でも挑戦するように勧めたところ、家で料理をした参加者が6人いた。また、保護者も包丁や火を使わない調理方法に関心を持ち、「手伝わせてみよう」と考えるようになった。
- 毎回のアンケート結果では非常に満足度が高く、特に保護者から感謝の声が多く聞かれた。
- マンツーマンで指導する場面があるため、支援者の確保が必要である。
- 活動場所から離れてしまう参加者の対応が難しい。
- 学習目標の達成度を測る基準をどこに見出せばよいか分かりづらい。
- 運動系や絵・音楽などの文化系の活動の希望があるが、内容や場所の選定、支援者の確保などが課題である。

③ 令和6年度の取組

ア. ビジョン

昨年度の反省や課題を踏まえ、講座のブラッシュアップを図った。

（ア）活動の定期化⇒「月に1回、日曜日開催」

（イ）募集対象の拡大⇒市内事業所、中津支援学校高等部にも案内

（ウ）学習内容の進化⇒昨年度好評だった「かんたん料理

教室」に加え、「体験料理教室（そば打ち、パンづくり、和菓子づくり）」「ランニング教室」を導入した。
 (エ)サポーター導入⇒「支援者研修会」を実施し、3名のサポーターを確保した。
 (オ)講座名を参加者が覚えやすいように「まなびば」とした。

イ. 目標

- (ア)生きるための基本となる食について興味をもち、家庭でも料理に挑戦してみよう。
 - (イ)料理と運動などの活動を通して、自分の力でできたことに自信を持とう。
 - (ウ)この活動を通して、家族や職場、学校以外の人との交流を持ち、知り合いを多くつくろう。
 - (エ)自分の健康管理について関心を持ち、健康的な生活を送ることの大切さを知ろう。
- ⇒ **社会教育としての学習目標**を達成するために、
- (ア)講師との打ち合わせの中で、参加者が作業や運動をする場をできるだけつくる。(安全面の配慮)
 - (イ)掲示物を工夫する(視覚効果)。
 - (ウ)配膳や後片付けをできるだけ自分たちで行う。
 - (エ)「いただきます」等の号令は参加者がかける。
 - (オ)ふりかえりの時間を作り、感想を書き、発表をする。
 - (カ)かんたん料理は、できるだけ家庭で作ってみように促すための宿題を出す。
 - (キ)小さなことでも褒めて、成功体験を味わってもらおう。



< 走る前にしっかり準備運動 >

ウ. 取組

	日時	内 容
1	R6/ 6/ 2	午前：料理（茶碗蒸し、一銭焼き、おにぎり） 午後：ランニング教室 社会教育施設講座支援者研修
2	R6/ 7/ 7	午前：料理（そば打ち）、 午後：ランニング教室（室内）

	日時	内 容
3	R6/ 8/25	料理（和菓子づくり）
4	R6/ 9/ 1	料理（パンづくり）
5	R6/ 9/29	午前：料理（カップ寿司、塩からあげ、おにぎり） 午後：ランニング教室
6	R6/11/ 3	午前：料理（かけそば、おにぎり） 午後：ジョギング、体操、リレー
7	R6/12/ 1	午前：料理（むかご飯、チキン南蛮風、こね切り餅） 午後：ランニング教室
8	R7/ 1/ 5	午前：料理（パンづくり） アンケート調査 午後：ランニング教室
9	R7/ 2/ 2	午前：料理（恵方巻、醤油からあげ、お豆腐まんじゅう） コンファレンス発表報告 午後：ランニング教室

< 参加者 >

参加者数 10.3名／回（平均）

*登録者14名（特別支援学校高等部3、
A型事業所1、B型事業所9、一般事業所1）

エ. 成果と課題

< 保護者アンケートにみる受講者の変容 >

- 家で、食事の準備や片付けの手伝いをすすんでしてくれるようになった。
- 毎回感想を皆の前で発表することによって、人前で話すことに少し自信がついたようだ。
- 一人で買い物に行けるようになった。
- 「まなびば」がきっかけとなり、1週間に一度、親子で体操やランニングをするようになった。

< 運営側の振り返り >

- 何かを身につけることや気づくことを主眼に活動してきた。参加者や親にとってハードルが高いところもあったが、常に一生懸命に取り組んでいた。
- 「かんたん料理教室」のレシピをパンフレットにまとめたので、支援学校や事業所等に配布し、今後の事業展開につなげていきたい。
- 活動場所が広い調理室となり、親も一緒に参加するようになったので、子どもの新たな特性や成長に気づくことができた。
- 目標を設定した社会教育活動を行うには、継続的な学習が望ましいが、定員を設けざるを得ず、多くの方に学んでほしいという思いが叶わない。
- 今後は、障がいのあるないに関わらず、共に学ぶ喜びを分かち合える場を作っていく必要がある。

由布市庄内公民館「ゆふぽきらきら教室」(令和5～6年度)

① はじめに

由布市は大方県のほぼ中央に位置し、人口は約33,000人である。令和5年度より庄内公民館で事業を実施し、2年目になる。

② 令和5年度 of 取組

ア. 事業をはじめるにあたり

由布市社会福祉協議会、障がい者支援施設、多機能型事業所、県立由布支援学校といった外部団体と、由布市福祉課、部落差別解消推進課、社会教育課、庄内公民館といった庁内との連携を図るため、スタッフ会議を開催して支援体制を構築した。

第1回会議(6/28)には代表者9名が参加し、公民館で障がいがある方を対象とした講座を実施するという事業の趣旨に賛同をいただいた。問題点としては、

- ・ 障がいの程度や年齢層に差が生じる
- ・ 教室の内容次第で参加人数が変更する
- ・ 「学び」につながるか心配である
- ・ 施設の職員が同行するので多数の参加は不可能

といった点が挙げられた。

第2回会議(8/17)では前回の問題点を解決するために話し合った。その結果、

- ・ 障がいの程度は軽度、年齢は問わない
- ・ 参加者を固定しない(都度募集とする)
- ・ 「ふりかえり」を行い「学び」に繋げる
- ・ 同行者1名で3～5名の参加で可

という共通理解を得た。



< 大人数でも楽しめるふうせんバレー >

イ. 取組

	日時	内 容	参加者数
1	R5/ 10/ 4	①ボッチャ ②ふうせんバレー	当事者：13 講師：1 協力者：18
2	R5/ 10/25	①読み聞かせ ②ものづくり教室 (クリスマスツリー)	当事者：7 講師：2 協力者：14
3	R5/ 11/29	映画鑑賞 (トムとジェリー)	当事者：22 講師：0 協力者：13
4	R5/ 12/20	①料理 (フルーツたっぷりパ フェづくり)	当事者：18 講師：3 協力者：16

ウ. 成果と課題

- 本事業を通じて、他団体や各課との連携・支援体制を構築することができた。
- 講座内容に、障がいがある方や施設職員の意見を取り入れた。
- 各会の終わりに必ず参加者とスタッフで「振り返り」を行うことで、学びにつなげることができた。
- ものづくり(クリスマスリース制作)やおやつづくり(フルーツパフェ)など、形を残す活動を行うことで、参加者の満足度が高く、次回の参加を楽しみに待つ姿が見られた。
- 第3回は冬休み中の実施であったが、特別支援学校小学部児童6名が参加した。「在学中から卒業後へつながる」きっかけとなったと言える。
- 障がいがある方と健常者がもっと交流できるような工夫が必要である。
- 働いている人が参加しやすい工夫(土日開催の検討)をする。
- 来年度以降、どのように障がいがある方の意見や希望を取り入れた講座を作っていくか、また、支援者や講師を発掘・確保していく必要がある。

③ 令和6年度の取組

ア. 取組(JL:「ジュニアリーダー」を指す)

	日時	内 容	参加者数
1	R6/ 7/22 (月)	①ボッチャ ②夏祭り	当事者：41 講師：1 ボランティア：5 由布市JL：10

- ・ ボッチャのルールを早めに理解し楽しそうに取り組んだ。
- ・ 夏祭りでは、由布市ジュニアリーダーズクラブが企画運営を行った。子どもたちや一般参加ボランティアが障がいがある方と交流する良い機会となった。



< 子どもとふれあうジュニアリーダー >

	日時	内 容	参加者数
2	R6/ 9/12 (木)	アート教室 (マスキングアート、 スタンドグラスづくり)	当事者：16 講師：3 ボランティア：2

- ・大型用紙（3.5m×1.5m）にペンキでペイントを実施。アート完成時には歓声があがった。
- ・スタンドグラスづくりでは、配色に工夫しながら台紙に色とりどりのセロファンを張り付けた。
- ・初めての内容だったが、学習効果も高かった。

	日時	内 容	参加者数
3	R6/ 11/11 (月)	①映画鑑賞 (パンダコパンダ) ②ものづくり教室 (クリスマスリース)	当事者：14 講師：1 ボランティア：5

- ・大ホールで映画を鑑賞したあと、会議室へ移動してリースを制作した。
- ・受講者は好きな色を使ってオリジナルリースを完成し、「家で飾りたい」と嬉しそうに語る姿もあった。

	日時	内 容	参加者数
4	R6/ 12/21 (土)	①料理 (ティラミス・アップルパイ)	当事者：14 講師：1 ボランティア：4 由布市JL：2

- ・調理室にてクッキング教室を開催。飾りつけなど難しい部分もあったが支援者と協力しながら全員が完成させることができた。
- ・試食では、ボランティアさんと楽しく話しながら美味しくいただいた。



< マスキングアート（第2回）庄内公民館に展示 >

イ. 成果と課題

○障がいがある方と健常者との交流の機会が少なかったという昨年度の反省を生かし、今年度はボランティア等との交流の機会を増やすように心がけた。特に、由布市ジュニアリーダー（注）たちと連携して実施できた「夏祭り」の取り組みはインクルーシブな講座実施に向けた大きな一歩である。

○毎回丁寧なふりかえりを行うことにより、「難しかった」「家でも取り組みたい」といった当事者の声を取り入れて内容や支援の方法を考えることができた。

○市報や市のHP、回覧板等で公募したところ、ボランティアが7名集まり、周知方法の効果が見られた。

○障がい支援施設の職員からは、「講座内容もすばらしく、ずっと続けていってほしい」と要望がある。

●公募したが、受講者の応募はなかった。

●庄内公民館は公共交通機関で来館することが難しいため、来たくても来られない可能性もある。

●教育的効果の検証が難しい。



< 受講者・協力者を行う「ふりかえり」（第1回） >

④ 今後の展望

2年間の実施により、関係者の連携体制も整い、講座運営も安定してきた。受講者も毎回楽しみに来ている。3年目となる来年度は、実施回数や内容について、様々な方面からの意見を反映させたものにしたい。また、チラシや市報では当事者に情報が行き渡らない可能性がある。周知方法を工夫して、施設単位の参加から、在宅の方、一般就労の方へと参加を広げたい。

※注：「ジュニアリーダーについて」

由布市では、中高生を対象に学びの支援やネットワークづくりをおして人づくりや地域づくりに関わる青少年リーダーを各地域で組織化し、活動を支援している。

豊後大野市千歳公民館「ひょうたんカレッジ」(令和4～6年度)

① はじめに

豊後大野市は大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、人口は約32,000人である。「一般社団法人ここからプラス」が令和3年度より市内公民館及び体育施設の指定管理事業を行っている。

県内初の公民館講座のモデルとして、県内外からの視察も多く受け入れており、公民館講座の普及に貢献するところは大である。

② 令和4年度取組

ア. 事業をはじめるにあたり

	連携相談	説 明
基本構想	公民館 + 社会教育課 + 社会福祉課	○公民館らしさ ○無理のない内容 ○支援者確保
情報交換	公民館 + 社会教育課 + 社会福祉課 + 自立支援協議会	○付き添い・送迎 ○対象選定(絞る) ○みだしなみ等 ○ニーズ・視点
実施相談	公民館 + 社会教育課 + 社会福祉課 + 近隣の作業所	○障がいがある方の、 意見や希望を反映

イ. 運営体制

	説 明
方向性	・参加者への配慮、理解しようとする気持ちを意識 ・関係者全員の学びの場、一緒に学ぶ姿勢 ・事前に配慮すべき点を確認
協力体制	・地区社教会議で「協力者」募集依頼 ⇒個人的な声掛けで最終的に5名確保 ・市役所関係部署に「支援者」として協力要請 ・協力者・支援者がわかるようビブスを着用
その他	・会場：ユニバーサルデザイン、広い駐車場 ・協力人材確保の観点から平日開催 ・講師との打ち合わせを綿密に行う (参加者情報共有、時間内で完結する内容等)

ウ. 1年目の取組

	日時・テーマ	内 容	参加者数
1	R4/10/4 相互理解	障がい理解	当事者：0 講師：2 協力者：8
2	R4/10/25 アイスブレイク	①卓球バレー ②ポッチャ	当事者：10 講師：2 協力者：14
3	R4/11/29 生活課題と癒やし	①お金についての学び ②癒しの音楽鑑賞と体験(琴)	当事者：9 講師：3 協力者：14
4	R4/12/20 季節の工作とおやつづくり	①正月飾り「門松」制作 ②じりやき(郷土料理)調理実習	当事者：10 講師：8 協力者：14
5	R5/1/23 新しい学び	①スマホ教室 ②ドローン体験、VRゴーグルで災害体験	当事者：9 講師：12 協力者：20

エ. 成果と課題

- 障がいがある方を対象主体とした講座を公民館で始めることができた(当事者延べ38名参加)。
- 地元の特別支援学校や市内社会福祉協議会、事業所と連携し、ニーズを把握して講座を組み立てた。
- 地域の人材を活用し、障がいの有無に関わらず誰でも参加できる講座の開催を目指した。講座以外の場でも声掛けができるようになった。
- 参加者の送迎を兼ねて参加する作業所支援員の存在が大きい。障がいの特性や状況の把握もできた。
- 60分講座の2部制で実施したが、トイレ休憩や振り返り・アンケートの時間がとれなかった。



< 第3回講座「さくらさくら」弾けたね！ >

③ 令和5年度の取組

ア. 2年目の取組

	日時・テーマ	内 容	参加者数
1	R5/7/31 障がい理解	障がい当事者から学ぶ (絵手紙教室)	参加者：5 講師：2 協力者：10
2	R5/8/29 レクスポー ツ講座	・ディスコン ・モルック	参加者：5 講師：4 協力者：15
3	R5/9/26 YouTube の学び	・地元ユーチューバーか ら学ぶ ・撮影体験	参加者：8 講師：2 協力者：15
4	R5/10/3 カフェを楽 しむ	・ピザづくり ・コーヒー教室	参加者：11 講師：3 協力者：12
5	R5/12/5 五感の学び	・和太鼓 ・ダンス	参加者：16 講師：4 協力者：15
6	R6/1/16 楽しい工作	・ひょうたんランプ	参加者：12 講師：1 協力者：13
7	R6/2/20 みだしなみ の学び	・化粧／スキンケア／カ ラーコーディネート	参加者：11 講師：1 協力者：18

イ. 成果と課題

- 市の保健師との連携により、引きこもりの方が参加できた。徐々に慣れ、楽しむ様子があった。
- 参加者・保護者等のリクエストも反映させながら取り組んだ。
- 「みだしなみの学び」では、あらためて社会で必要なことを学ぶ機会が少ないと感じた。
- 講座の企画以外、材料等の準備、協力者の確保・調整などの見えない部分に労力がかかる。
- 余裕を持った時間運営の希望があった。



< 第7回：スキンケアとメイク、楽しい！ >

④ 令和6年度の取組

ア. 3年目の取組

	日時・テーマ	内 容	参加者数
1	R6/7/16 障がい理解	・マイナスをプラスに転換する ・粘土工作	参加者：8 講師：2 協力者：17
2	R6/8/6 レクスポー ツ	・ふうせんバレー ・テーブルホッケー (小学生交流20人)	参加者：7 講師：5 協力者：30
3	R6/9/3 安全の学び	・災害に向けた学び ・指笛を吹こう	参加者：5 講師：5 協力者：8
4	R6/10/1 料理教室 (研修)	・ナン・カレー ・(研修) 情報交換	講師：1 協力者：7 関係者：8
5	R6/11/5 年賀状作成	・絵手紙 (障がい者から学ぶ)	参加者：7 講師：1 協力者：9
6	R6/12/3 健康づくり	・ピラティス	参加者：7 講師：1 協力者：9
7	R7/1/14 楽器の演奏	・和太鼓体験	参加者：8 講師：3 協力者：11

イ. 成果と課題

- 余裕を持った時間の希望があり運営に反映した。
- 自分の新しい面、気づかなかった面に気づけた。
- 地域住民との交流希望があり、子どもとの交流を実現した。
- 移動手段がない場合は参加できない方が多い。
- 作業所などの理解・協力がないと参加は難しい。
- 休日開催を検討したが、参加者・協力者共に参加が難しい状況を確認した。
- 参加の問合せがあるが、新規の個人参加は難しい。

⑤ 今後の方向性

- 交通手段確保の課題を考えれば、福祉分野の障がい者向けの移動サービスにかかる事業などとの連携が望まれる。
- 機会提供の場がたくさんでいることが望ましいが経費・運営体制確保の課題があり、実施回数を増やすことは難しい。
- 継続を望む声が多く継続する予定である。

(3) 大分大学生涯学習講座

① 取組の背景

担当の岡田正彦大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授によると、同センターでは公開講座と公開授業を中心に教育面の大学開放を担当しており、リピーターも多数存在するが、あまり参加していない受講者層（障がい者が代表的）もいることが課題となっていた。また、大学単独で学習機会を提供するだけでは、地域住民全体に貢献することは難しいことから、教育機関や行政、NPO、企業など多様な主体と連携し、様々な内容の学習機会を多様な対象に向けて提供できる「地域生涯学習支援システム」の形成に貢献したいという課題意識もあった。

② 講座のデザインと準備

大学ならではの貢献ができる内容や方法は何かにについての検討から始めた。一般的には大学は高等教育レベルの（高度な）専門的・先端的内容を体系的に教えることができることが特徴であるが、通常的手法では障がい者の関心に合致しなかったり理解が難しいことが想定されたりしたため、初年度は講座担当者が障がい者の生活状況や学習ニーズを確認し、どのような内容・方法の講座がよいかを探索しつつ講座を展開することとなった。

教育学部特別支援教育コースの教員に協力・助言をいただくと共に、特別支援学校教員を対象に募集を行い、メンターとして大学生学習ボランティアと連携しながら講座の運営を支援していただいた。

大学生学習ボランティアについては、担当者の授業や関係者の周囲の学生に声掛けを行い、35名という多数の学生に参加してもらうことができた。

講座の広報については、県内特別支援学校高等部3年生と教員、公民館や図書館にチラシを配布した。

③ 令和4年度取組 ※場所はすべて大分大学

	日時	内 容	参加者
1	R4/ 11/12	①開講式 ②ダンス ③自己紹介	講師：3 ボランティア：7 メンター：2
2	R4/ 11/26	①ダンス ②キャンパスツアー	講師：3 ボランティア：8 メンター：2
3	R4/ 12/ 3	①ストレッチ・太極拳 ②グループワーク	講師：3 ボランティア：8 メンター：1
4	R4/ 12/10	①ストレッチ・太極拳 ②グループワーク	講師：3 ボランティア：7 メンター：2

	日時	内 容	参加者
5	R4/ 12/24	①ストレッチ・太極拳 ②グループワーク	講師：3 ボランティア：7 メンター：2
6	R5/ 2/23	①野鳥観察 ②絵画作品制作 (学生が企画実施)	講師：1 ボランティア：4 メンター：3

※すべて参加できることを条件とし、参加登録者は**4名**であった。

・基礎講座とスポーツという二部構成で実施した。
スポーツを入口として学生や講師との交流を楽しんでもらいながら、基礎講座で自分の生活や将来やりたいことを考えながらニーズを明らかにしてもらうこととした。ダンス講座終了後、講師が主宰する会で継続的に活動する人が現れたという例からも、学習活動の継続や移行などで学習活動が別の学習活動につながることも、また学習活動の成果を生かすなどして社会参加や社会でのつながりを広げることも狙いとして設定したいと考えた。

<受講者の感想>

- ・「講座の回数、1回の講座時間がちょうどよかった」「大学生と一緒に学べた」→「**そう思う**」100%
- ・太極拳やダンスなどをして新しい自分を発見することができ、自分のための勉強になった。(20代女性)
- ・話し合う人と出会えて良かった。(20代男性)

<ボランティア学生の感想>

- ・個別的な対応の在り方やその重要性を感じた。
- ・仕事に対して意欲的で前向きな受講者の方の姿勢が尊敬できると感じた。



< 話合ったことを学生と発表する受講者 >

④ 令和5年度の取組 (ボラ＝学生ボランティア)

	日時	場 所	内 容	参加者
1	R5/ 10/ 8	大分大学教育 学部 技術・美術棟	アートワークショップ ①	受講者：6 講師：1 ボラ：2 メンター：2
2	R5/ 10/15	大分大学 第3体育館	パラスポーツ 体験（ボッチャ、風船バレー）	受講者：6 講師：1 ボラ：5 メンター：3
3	R5/ 10/22	大分大学教育 学部 技術・美術棟	アートワークショップ ②	受講者：5 講師：7 ボラ：6 メンター：3
4	R5/ 10/29	県身体障害者福祉センター	多様な学び 体験（eスポーツやモルック）	受講者：7 講師：1 ボラ：9 メンター：3
5	R5/ 11/12	ホルトホール大分、大分駅周辺	まち歩き 調査	受講者：7 講師：1 ボラ：4 メンター：3

※1回のみの参加も可とした。1回のみ：4名、全て参加：2名
1年目からの継続受講者：3名

- ・2年目の講座のデザインに向けて打ち合わせを重ね、基本方針として、①大分大学の特性を生かし大学として意義を感じられる講座とすること、②生涯学習講座に関して連携を推進し地域での仕組み作りに貢献すること、の2点を設定した。具体的には大分大学の教育資源を活用すること（大学生、施設、教職員、プログラムなど）や多様な学習者がその特性に応じて学べる機会を広げることを重視することである。

教育学部の廣瀬先生による「各自のペースで制作したものを作る」というワークショップは、インクルーシブな講座に向けた取組であり、受講者と学生が「共に学び、楽しむ」姿が見られた。

県身体障害者福祉センターや大分駅周辺の町に「出張講座」を行い、学びの場の拡充を図った。



< 受講証明書を基盤教育センター長から授与 >

⑤ 令和6年度の取組 ※場所はすべて大分大学

	日時	内 容	参加者
1	R6/ 11/23	アートワークショップ ①	講師：1 ボランティア：2 メンター：2
2	R6/ 12/ 7	豊後絞り（藍染め）を 学び、体験してみよう ①	講師：1 ボランティア：1 メンター：2
3	R6/ 12/21	豊後絞り（藍染め）を 学び、体験してみよう ②	講師：1 ボランティア：1 メンター：3
4	R7/ 2/ 8	アートワークショップ ②	講師：1 ボランティア：2 メンター：2

※原則すべて参加できることを条件とし、参加登録者は10名。
2年目からの継続受講者：2名。車椅子ユーザー1名

- ・教育学部の教員2名による芸術および被服学に関する講座2種×2回とした。豊後絞りの歴史を学び、染色を実際に体験することで、衣服を大切に着るべきだと考えさせられる講座であった。
- ・生涯学習講座に加えて、個々人のニーズに合わせて学習活動を展開することを支援する「個別ニーズ対応講座」を準備している（ボランティアやパソコンの扱い方といった仕事上のスキルなど）。

⑥ 成果と課題

当初は運営側の不安もあったが、いざ実施すると円滑に「学ぶ機会を一緒にできている」という感覚をスタッフや学生ボランティアも実感できた。受講者も幅広く興味関心を示し、楽しみながら参加した。

学生ボランティアは、メンター（特別支援学校の教員）の助言や支援を受けることで、事前の経験や研修なしでも有効に障がいがある方と交流し共に学ぶことが分かった。

ただ、生涯学習講座と別の学習機会との連携・接続がまだ初発的な段階にあること、障がい者の生活圏域や自由時間等を考慮して日常的にアクセスしやすい学習の機会を豊かにする取組が必要だ。

⑦ 今後に向けて

現在は文部科学省委託事業として県教育委員会が支援しているが、今後自走化していく必要がある。

教育機関間の連携や教育と福祉の連携等で障がい者の視点に立ち、生活全体の支援が可能な仕組みづくりに向け取り組んでいくことが必要と考えられる。

(4) 県立青少年の家ワンデイキャンプ

① はじめに

大分県は、県立の社会教育施設として「香々地^{かかち}青少年の家」(豊後高田市)、「九重^{ここのえ}青少年の家」(九重町)を有している。自然体験、生活体験や社会体験などの体験活動を通して、青少年の健全育成や学校支援の促進を図るとともに、生涯を通じた学びを支援するため広く県民に学習機会を提供することにより社会教育の振興を図ることをねらいとしている。

② 令和4年度の取組

ア.現状

障がいがある方の施設利用については、特別支援学校の宿泊研修や放課後デイサービスでの利用があったが、どちらも指導や支援は学校の教員や事業者の職員・スタッフがっており、青少年の家の職員が障がいがある方を指導したり支援したりする機会はほとんどなかった。

イ.事業実施まで

＜香々地青少年の家の場合＞

(ア)県北地域事前説明会(6/16)

- ・県社会教育課、県障害福祉課、中津・宇佐・豊後高田市の相談支援専門員、青少年の家所長・担当者が協議
- 豊後高田市事前説明会(6/22)
- ・市役所に赴き、社会福祉課にも説明を実施

↓

(イ)各市で事業所に周知、募集開始

↓

(ウ)希望事業所と連絡調整、下見受け入れ、実施プログラム提案・決定

↓

(エ)実施、振り返り

＜九重青少年の家の場合＞

(ア)関係者協議(7/4)

- ・日田市障がい者相談支援基幹センターにて日田・玖珠・九重を総括するセンター長を含め協議、協力依頼

(イ)以下は香々地青少年の家と同じ流れ

ウ.取組

※「職員」は事業所の職員を指す

	日時・場所	内 容	参加者
1	R4/10/ 1 香々地	・マيسプーン制作	当事者：40 職員：5
2	R4/11/ 7 香々地	・マيسプーン制作 ・プラネタリウム	当事者：18 職員：9
3	R4/11/19 九重	・ハイキング ・プラネタリウム ・バードコール制作	当事者：28 職員：5
4	R4/11/28 香々地	・プラネタリウム ・ネイチャークラフト	当事者：25 職員：9

エ.成果と課題

○県立青少年の家で初の障がいのある方を対象にした講座(ワンデイキャンプ)を実施し、利用者数は計画時想定60人(10人×6回)を大きく上回る139名(うち障がい当事者111名 施設職員28名)であった。

○利用者・職員からは「楽しかった。」「また行きたい。」「普段自発的に話をしない方や関わりをもたない方も作品作りを通してコミュニケーションをとることができていた。」と高評価を得た。

○講座を実施することで、ハード面およびソフト面の課題が明らかになった。

●車いすや歩行器を使用する方は階段や段差がある通路は通れず通路を探すことがあったので、トイレや活動場所までのできるだけバリアが少ない通路を設定する必要がある。

●事業所の職員の方のフォローがあって成立しており、施設職員とボランティアのみでの実施はまだ不安である。



＜ かかちワンデイキャンプ ネイチャーアート ＞

③ 令和5年度の取組

ア.取組

	日時	内 容	参加者数
1	R5/ 9/22 香々地	・ 所内散策 ・ プラネタリウム	当事者：39 職員：11
2	R5/10/26 香々地	・ 所内散策 ・ プラネタリウム	当事者：16 職員：3
3	R5/11/ 9 香々地	・ 創作活動（マيسプーン） ・ プラネタリウム	当事者：28 職員：10
4	R5/11/11 九重	・ ハイキングor工作 ・ ペタンク ・ プラネタリウム	12 (職員を含む)
5	R5/11/14 香々地	・ 創作活動（ネイチャー クラフト） ・ プラネタリウム	当事者：29 職員：9
6	R5/11/21 香々地	・ 創作活動（写真たて） ・ プラネタリウム	当事者：25 職員：10
7	R5/12/ 2 香々地	・ プラネタリウム ・ 軽スポーツ（ペタンク）	当事者：22 職員：8
8	R5/12/ 2 九重	・ ハイキングor工作 ・ ペタンク ・ プラネタリウム	27 (職員を含む)

当日のスケジュール例

10:30	入所のつどい
10:50～12:00	・ 所内自然散策 ・ 創作活動（マيسプーンづくり）
12:00～13:00	昼食（弁当、または食堂利用）
13:00～13:50	プラネタリウム
13:50～14:00	退所のつどい

イ.成果と課題

- 昨年度（4回）を大きく上回る8回実施し、利用者数も前年比224%であった。
- 利用者の希望に応じてプログラムを選択できるようにし、青少年の家職員が指導・支援を行った。
- 活動場所やトイレの位置を考え、無理のない動線を確保し、移動がスムーズに行うよう工夫した。
- 下見や打ち合わせ時間を確保する必要がある。



< このえワンデイキャンプ ハイキング >

④ 令和6年度の取組

ア.取組

（ア）【継続】「ワンデイキャンプ」（事業所対象）

	日時	内 容	参加者数
1	R6/10/ 8 香々地	創作活動（写真たて） プラネタリウム	当事者：29 職員：15
2	R6/10/15 香々地	軽スポーツ（ペタンク）、 プラネタリウム	当事者：22 職員：3
3	R6/11/ 6 香々地	創作活動（写真たて） プラネタリウム	当事者：5 職員：2
4	R6/11/13 香々地	所内散策 プラネタリウム	当事者：18 職員：6
5	R6/12/ 7 九重	・ 活動（A B選択） A. 所内散策 B. ネイチャーアート ・ プラネタリウム	当事者：3 職員：14
6	R7/ 2/22 九重	・ 活動（A B選択） A. 展望台散策 B. ネイチャーアート ・ プラネタリウム	当事者：10 職員：4
7	R7/ 3/ 2 香々地	創作活動（写真たて） プラネタリウム	当事者：10 職員：4 家族：12

（イ）【新規】「ユニバーサルプログラム」

11/16に九重青少年の家で、主に一般就労者を対象にトレッキング、焚火体験といったプログラムで募集したが、人が集まらず、中止となった。

イ.成果と課題

- 香々地は「中津・豊後高田・宇佐」の、九重は「日田・玖珠・九重・由布」の障がい福祉所管課や相談支援専門員との連携により、事業の周知や募集を効果的に行うことができた。
- 「マيسプーンづくりはやや難しい」、「所内散策はとて好評である」といった経験を積み重ねることで、プログラムの難度や休憩時間を多くとる必要性がわかり、計画しやすくなった。
- 必要な合理的配慮や事前準備物が明らかになった。
 - ・靴ベラや椅子…靴の着脱の際、あると良い。
 - ・野外活動時の簡易テントやブルーシート…休憩や熱中症予防のために必要である。
 - ・名札…利用者に声をかけやすくなる。
 - ・所内散策時のウォーキングポール…膝への負担を軽減する。

⑤ 今後の展望

一般利用に向け、職員の支援スキル向上や内容の工夫をさらに図りたい。事業所単位の利用に加えて個人や家族単位で参加できるプログラムの開発にも取り組んでいきたい。

(5) 特別支援学校出前講座

① はじめに

「学校卒業後の学び」を支援する事業という性格上、イベントや講座は特別支援学校等を卒業した18歳以上の成人を対象としている。しかし、卒業した方々に情報を届けることは容易ではない。そもそも、「障がいがある方の生涯学習」という概念自体が新しく、当事者の方だけでなく、保護者や支援者、教職員にも事業の趣旨や意義を知っていただくためには、特別支援学校在学中から余暇活動や卒業後の学びについて知り、実際に体験してもらうことが有効であると考え、3年間で出前講座を拡充してきた。

② 実施方法

ア.年度当初の特別支援学校校長会で出前講座の趣旨を説明し、希望を募る

イ.実施校を決定し、プログラムを提案する。

講師を選定し、依頼する。

(ア)ワークショップ「卒業後の学びを考えよう！」

(イ)体験講座

の二本立てを基本とする。

ウ.講座を実施し、生徒の反応や反省、気づきを次回以降に生かす。

③ 令和4年度の実施

ア.取組

	学校	月日	内 容	人数
1	南石垣支援	R5/ 2/13	①ワークショップ ②フライングディスク ③絵手紙	生徒 10
2	大分支援	R5/ 2/17	ワークショップ	生徒 23+ 保護者 3
3	大分大学教育学部附属特別支援	R5/ 2/22	①ワークショップ ②卓球バレー	生徒 8+ 保護者 8

イ.成果と課題

○生徒は非常に意欲的に楽しんで取り組んだ。

○教職員や保護者にも「卒業後の学びの場」について知り、考えてもらうことができた。

●実施校が大分市・別府市に偏った。

●依頼時期が遅くなり、卒業式前のあわただしい時期の実施となってしまった。



< フライングディスクで白熱！（南石垣支援） >

④ 令和5年度の実施

ア.取組

※ワークショップはすべての回で実施しているため省略

	学校	月日	内 容	人数
1	大分大学教育学部附属特別支援	R5/ 11/9	絵手紙	生徒 5
2	宇佐支援	R5/ 11/27	①絵手紙 ②ドローンサッカー (選択)	生徒 20
3	中津支援	R6/ 1/15	①絵手紙 ②フットサル (選択)	生徒 33
4	大分支援	R6/ 1/16	①絵手紙 ②ドローンサッカー (選択)	生徒 26
5	新生支援	R6/ 2/13	①ドローンサッカー ②卓球バレー (入れ替わりで全員体験)	生徒 27

イ.成果と課題

○ドローンサッカーや絵手紙など、生徒の興味関心に応じた選択制講座を実施したことで、好きなこと・やってみいたいことに主体的に取り組む「生涯学習」の理念や良さを伝えられた。

○市町村の教育委員会や障がい福祉所管課、社会福祉協議会と連携して地元の「学びの場」を紹介し、卒業後の余暇活動や学びにつながる可能性を高めた。

○卒業後の学びの場に興味を持ち、配付された資料を持ち帰って家庭で利用できないかと話をした生徒もいたようである。

●県下のすべての特別支援学校（17校）で講座を実施するのが望ましいが、特別支援学校も学校行事が多いことと、講座の企画・運営に労力がかかるため、なかなか実現は難しい。

- 年に1回の単発講座であるため、生徒の印象に残りづらい（中津支援学校では高等部1～3年生を対象に実施できたことは大きい）。
- 特別支援学校の教員も、地域の生涯学習講座の存在や卒業後の学びの必要性について意識が高いとはまだ言えない。教員の啓発も必要である。



< ドローンサッカーに夢中！（臼杵支援） >

⑤ 令和6年度取組

ア. 取組

※ワークショップはすべての回で実施しているため省略

	学校	月日	内 容	人数
1	大分大学教育学部附属特別支援	R6/10/3	ドローンサッカー	生徒11+ 保護者 1
2	日田支援（同窓会）	R6/10/19	①風船バレー ②バスボム作り（選択）	卒業生39
3	日田支援	R7/1/21	①モルック ②ソルトペインティング	生徒19
4	さくらの杜高等支援	R7/1/29	①ズンバ ②ドローン撮影	生徒31
5	南石垣支援	R7/1/29	①しおり制作 ②チアダンス	生徒11+ 保護者 2
6	大分支援（県身体障害者福祉センターで実施）	R7/1/31	①絵手紙 ②フライングディスク ③卓球バレー ④ドローンサッカーから2つ選択	生徒17
7	臼杵支援	R7/2/4	①絵手紙 ②ドローンサッカー	生徒12+ 保護者 2
8	中津支援	R7/2/18	ストラックアウト&スカットボール	生徒11+ 保護者 2

イ. 成果と課題

- 昨年度の実施校から、「昨年度とても良かったので、ぜひ今年度もお願いしたい」という依頼があった。また、こちらから依頼した学校でも「あの出前講座ですね。やりましょう」と好意的な反応が多かった。
- キャリア教育の一環として扱う学校があった。教育課程の中に「余暇活動」や「卒業後の学び」が入るようになると、より実施に積極的な学校が増えると考えられる。
- 7校で8回実施した。回数、内容ともに1年目と比べると格段に進化した。「実際に学べる場や機会を紹介してほしい」という要望をうけ、地元の取組につなげることを心掛けた。具体的には以下の通り。

- ・大分大学教育学部附属特別支援
⇒県身体障害者福祉センター（大分市）
- ・日田支援⇒市レクリエーション協会、ふうせんバレー協会、すぎのこ村モダンタイムスアート（社会福祉法人すぎのこ村）、東有田公民館講座（日田市）
- ・さくらの杜高等支援⇒「おおいたユニバーサルカレッジ」「ヨカたの」（大分市）
- ・南石垣支援⇒中央公民館「カラフル教室」（別府市）
- ・大分支援⇒県身体障害者福祉センター（大分市）
- ・臼杵支援⇒障がい者さぽーとセンター風車「チャレンジ教室」（臼杵市）
- ・中津支援⇒市社会福祉協議会 障がい児・者余暇活動支援事業「てくてく」（中津市）

- 3年間で一度も実施できていない学校がある。
- 寒い時期に体育館や屋外でのプログラムを実施した。生徒は元気であったが、風邪をひく等のリスクは小さくない。時期と会場、内容を適切に設定するべきだ。
- 「受講後、高等部2年生の生徒が県身体障害者福祉センターの講座を受講するようになった」という例があったが、真に卒業後の学びの場へつながれたかどうかについての追跡調査や具体的・数値的な効果測定は難しい。

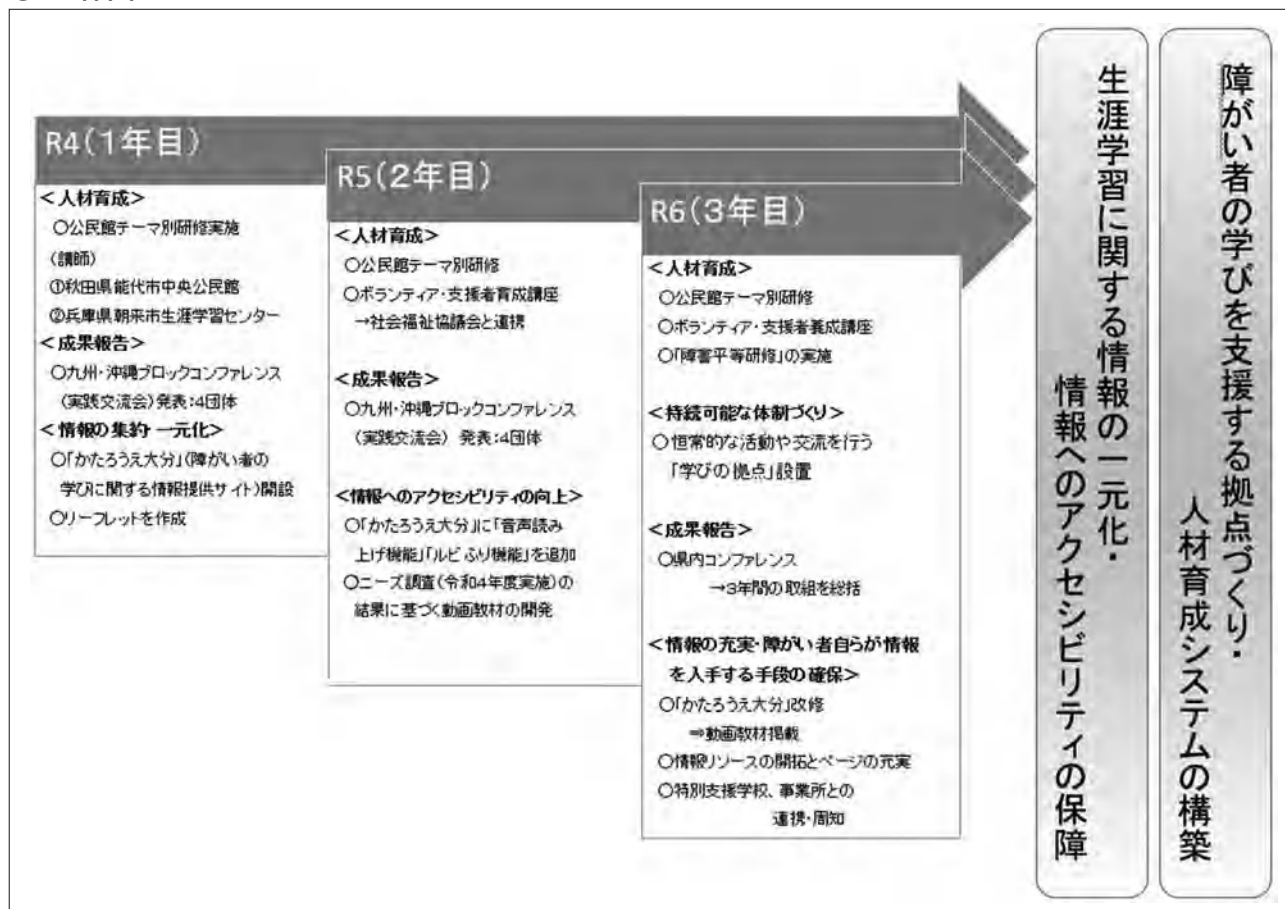
⑥ 今後の展望

「学校教育」から「社会教育」への円滑な接続を図るうえで、特別支援学校出前講座は非常に有効であるため拡充を図ってきたが、現行の方法で実施校をこれ以上増やすのは現実的でない。今後は各地域の行政や団体が直接支援学校と連絡調整して出前講座を継続的に実施していく仕組みづくりが必要であると考えている。

4. 普及・啓発

(1) 概要（令和4～6年度）

① 全体図



② 目的

- ア. 障がい者の生涯学習に関する情報発信
- イ. 人材育成（指導者・支援者の養成）
- ウ. 広域コンファレンスの開催による事業の普及
- エ. 学びの場や機会の拡充

③ 取組

- ア. 障がい者の生涯学習に関する情報発信（詳細はP39）
 - ⇒ 専用ウェブサイト「かたろうえ大分」運営
 - ・リーフレット発行
- イ. 人材育成(指導者・支援者の養成)(詳細はP35、36)
 - ⇒ 公民館職員対象研修
 - ・社会教育施設（公民館等）講座支援者研修
 - ・障害平等研修
- ウ. 広域コンファレンスの開催による事業の普及（詳細はP40、41）
- エ. 学びの場や機会の拡充（詳細はP37、38）
 - ⇒ おおいたユニバーサルカレッジの開講

④ 成果と課題（今後の展望も含めて）

「かたろうえ大分」を開設し、ユニバーサル機能も追加したことで、情報へのアクセシビリティを保障することが一定程度できている。しかし、そもそも視覚障がいがある方がスマートフォンやパソコンを利用されるのか、ユニバーサル機能の効果はあるのかということについては測定することが難しく、そのような声も聞こえてきていないのが現状である。

また、研修は力を入れて行ってきたため、障がい者の生涯学習という概念や重要性は少しずつ定着しつつあるが、体系的な連続講座を実施する方が、障がい理解も深まり実践的なスキルアップが見込めると考えられるため、方法や内容については改善の余地がある。

また、コンファレンスは開催場所や時期、内容を見直して参加者を増やしたい。

学びの拠点として「おおいたユニバーサルカレッジ」を開講できたが、まだ認知度も低く受講者も少ないので、特別支援学校出前講座等を通じてPRし、拡充を図っていきたい。

(2) 研修

① はじめに

令和4年度に実施した社会教育施設対象の調査では、「障害者の学び支援」に関わった経験が「ある」と答えた施設は25.9%と、「ない」の71.0%の約3分の1という結果であった。その理由としては、「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」(51.3%)、「施設・設備の整備が不十分」(41.7%)が多く挙げられた。また、ボランティア等を対象とした障がい特性の理解等を促すための事前研修等についても「実施したことがある」という施設は14.3%と、障がいがある方を対象にした講座を実施する素地が整っていないという現状が明らかになった。

そこで、①社会教育関係者が、障がいや障がいがある方、合理的配慮等について理解する。②先進的な取組をしている団体や個人を講師として招き、意欲を喚起するとともに具体的なノウハウを学ぶの2点を目的に研修を実施した。

② 令和4年度取組

ア. 第1回公民館テーマ別研修(7/16)

【内容】

- ・講義「大分県における障がい者の学びの現状と課題」
(講師:県身体障害者福祉センター副所長 吉川広明氏)
- ・講義「秋田県 障がい者の生涯学習支援モデル事業」
(講師:秋田県能代市中央公民館事業係長 佐藤邦彦氏)

【成果】

- 実践の積み重ねによって得られたノウハウやポイント等について講演や発表を行っていただいたため、受講者の満足度が高かった
- コロナ禍で参加を控える方が多かった。オンライン配信、オンデマンド配信を行い、広く研修の機会を提供するべきだった。

イ. 第2回公民館テーマ別研修(9/16)

【内容】

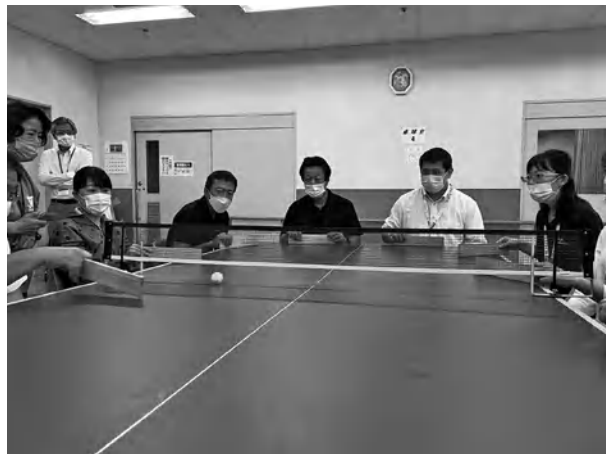
- ・体験「ボッチャ・フライングディスク・ドローン体験・卓球バレー」
(協力:県身体障害者福祉センターが場所提供、講師紹介)
- ・講義「公民館が行う知的障がい者支援」
(講師 NPO法人ぷろじえくとPlus 相談支援専門員 足立志津子氏) オンラインで実施
- ・ワークショップ「公民館講座を作ってみよう」

【成果】

- 「卓球バレーはすべての障がい者が参加できるスポーツと思うので取り組みたい。」といった発見や前向きな感想が多かった。
- ドローン操作は昼休み少し実施しただけだったが、参加者は夢中で楽しんでいて、ドローンサッカーの将来性を強く感じた。

- グループ協議を通して「今日帰って早速できること」「今年度中にしてみようと思ったこと」を考え、発表することにより、講座実施への第一歩となった。

●講演の内容が盛りだくさんで、時間が足りなかった。



< 卓球バレーは「楽しい」「ぜひ取り入れたい！」>

③ 令和5年度取組

ア. モデル事業関係者事前研修(由布市庄内公民館)(7/5)

【内容】

- ・講義「障がいの有無にかかわらず誰もが楽しく活動に参加するには」
(講師 大分大学教職大学院准教授 高橋徹弥氏)
- ・ワークショップ「講座・プログラム運営の実際」
- 実際の講座計画・運営を想定して工夫できる点を考える。*想定講座:「クリスマスリースを作ろう!」

【成果】

- 「障がいとは」「合理的配慮とは」について、各自で考え、新しい気づきを得た
- 事前研修での学びを、実際の講座にどう活かしたのか検証ができていない。



< ワークショップの様子「必要な配慮を考えよう」>

イ. 第1回公民館テーマ別研修（7/14）

【内容】

- ・報告・演習「やさしい日本語の公民館での活用について」
- ・実践発表「一緒に学ぼう、遊ぼう、みんなの『学び舎』で！」

（千葉県我孫子市湖北地区公民館 館長 太田悟氏）

- ・シンポジウム

①県内事例紹介

＊豊後大野市千歳公民館「ひょうたんカレッジ」

＊大分市坂ノ市公民館「ポッチャ教室」

②協議「共生社会の実現に向けた公民館の取組（現状と課題）」

【成果】

- 県内事業を実施主体に「発表」してもらおうのではなく、研修担当者が取材し、「好事例として紹介」「研修の教材として提示」という試みは、事業者の負担を軽減し、取組のすばらしさを客観的に伝えられるメリットがある。
- 「やさしい日本語」は障がいがある方にとっても有効で、公民館職員として身につけたいスキルであることが提示できた。
- 先進地の実践例と館長の熱量は参加者に大いに刺激となり、意欲を喚起した。
- シンポジウムにおいて、参加者による積極的発言を促す仕組みづくりが重要である。

④ 令和6年度の取組

ア. 社会教育施設（公民館等）講座支援者研修

（ア）日田市A O S E（アオーゼ）（5/23）

（イ）中津市生涯学習センターまなびん館（6/24）

【内容】

- ・講義「障がいの有無にかかわらず誰もが楽しく活動に参加するには」
（講師 大分大学教職大学院准教授 高橋徹弥氏）
- ・ワークショップ「講座・プログラム運営の実際」
- 実際の講座計画・運営を想定して工夫できる点を考える。＊想定講座：「カレーライスを作ろう！」

【成果】

- 前年度の高橋先生の研修がこれから講座をはじめようとするスタッフや支援者の不安を払拭してくれるような内容で好評であったため、今年度も引き続きお願いした。参加者からは「配慮の視点が広がり、有意義だった。」「実際に事業として行う場合も、多くの意見を共有して進めることが重要だと感じた。」等の意見があった。
- 講座を実施するにあたり必要な、事前準備と当日の運営の工夫について、具体的にイメージすることができた。

イ. 障害平等研修（DET）（7/19）

【内容】

- ・グループワーク（4人1組）

目標：「私は、障がい者を含めたすべての人が、より社会参加しやすくするための、行動をする」

講師：一般社団法人Diversity&Inclusion理事

認定ファシリテーター 石川明代氏 他6名

【成果】

- 講義形式ではなく、障がい当事者であるファシリテーターの導きに沿って、参加者各自が徹底的に考え、語り合う形式であり、「自分にかかっていたと思われるバイアスが溶けた」「身近なところから行動にうつすとともに、障がいのある方の望みを学び、聞く機会を作っていきたい。」等、研修後には参加者の変容が見られた。

- 参加者が少なかった（30名）。来年度以降も県内各地で実施し、一人でも多くの方に参加してもらいたい。



＜ 考えたことをふせんに書き、対話で深めていく ＞

⑤ 今後の展望

講座を実施する際、参加者の引率者である障がい福祉関連施設の職員や、メンター（特別支援学校の教職員経験者）に頼っている部分も大きいのが現状である。

社会教育施設において取組を普及・進化させていくためには、指導者・支援者の養成・確保が不可欠なので、今後も研修を継続して実施していくことが重要である。

その内容としては、障がいがある方の生涯学習の意義や必要性を学ぶ学術的なものから、より実践的なスキルアップを図るものまで幅広い。県内のモデル公民館事業に携わった職員による講話や助言も効果的である。また、実際に講座を見て学ぶ「視察・支援体験」により、取り組みへの抵抗感が払拭されたという声も多い。研修の内容を充実していくことが求められる。

(3) おおいたユニバーサルカレッジ

① はじめに

令和4年度に事業を開始し、公民館や青少年の家等での講座を実施してきたが、おおむね受講者やその保護者、支援者からは好評で「こういう場がもっとあるといい」「次はいつあるのか」という声を多く聞いた。

そこで、「学びの拠点」＝定期的に集い、学べる場をつくろうと、令和5年度より計画を立てた。

② 事業をはじめめるにあたり

A. 先進事例視察

令和5年6月20日に、和歌山県紀の川市にある「麦の郷 ゆめ・やりたいこと実現センター」の「夕刻のたまり場」「やりたいこと講座」を視察した。平成30年より、古民家を活用して毎週水曜日に「たまり場」を運営しながら、利用者の「やってみたい」という声をもとに講座をつくってきた。

- ①夕刻のたまりば（毎週水曜日、15～19時）
参加者：平均13名/回が思い思いに過ごす。
話したり、食ったり、ウクレレを弾いたり……
- ②やりたいこと講座 興味のあることについて、地元の講師を発掘・招へいして実施

参加者が心からリラックスして思い思いに楽しむ姿、支援者・ボランティアとざっくばらんに話す姿に感銘を受け、ぜひ大分県でもこのような場を作りたいと考えた。

I. 事業のデザイン、実施主体（委託先）選定

【目的及び概要】

- ・障がいがある方が特別支援学校等を卒業したあと、仲間と交流したり学んだりできる恒常的・継続的な「居場所」兼「学びの場」を提供するための生涯学習拠点として「おおいたユニバーサルカレッジ」（以下「OUC」）を開設する。
- ・OUCは、主に障がいがある方を対象として、拠点施設での交流や学びに関するプログラムを実施するとともに、県内の公民館等における出前講座を実施することで障がい者の生涯学習の普及とともに学習支援に携わる人材発掘・育成を図る。

【OUCの基本方針】

- ①障がいがある方に「居場所」や「学びの機会」を提供する。必要に応じて相談等の支援を行う。
- ②特別支援学校や大学、企業、行政、団体、ボランティア等と幅広く連携・協働する。
- ③市町村の公民館等社会教育施設に対して障がいがある方が安心して参加できる講座等のプログラムを提案・協働して実践する。
- ④①～③の実践を通じて、講師やボランティア人材の

発掘・育成を図る。

- ⑤障がいがある方の意見を尊重し、事業の成果について検証・改善を行う。

【実施場所】県立さくらの杜高等支援学校

- ・大分駅から徒歩10分とアクセスが良く、駐車スペースもある。
- ・グラウンドで運動もできる。
- ・特別支援学校内にあるため、生徒が卒業した後も来やすい。

【実施日時】

- ①毎月第1土曜日 10：00～14：00
毎月第2～第5火曜日 16：30～18：00（基本）
- ②市町村の公民館等社会教育施設での講座は先方と協議の上実施日時を決定

【事業実施形態】

「ヨカたの（任意団体）」に委託する。

（理由）「ヨカたの」は大分県内の団体であり、主なスタッフは全員特別支援学校教員経験者である。また、スポーツ・芸術・相談対応等の7事業を展開し、その功績により令和2年度には文部科学大臣表彰を受賞しており、本事業に必要な全ての条件を満たす団体であることから、本団体に委託することが合理的であると判断した。

③ 取組の実際

【広報】

- ・受講者募集チラシを作成し、県内特別支援学校全生徒に配布。毎月末に「OUCだより」（巻末資料P57）を発行し、取組の周知を図った。
- ・Instagramを開設し、こまめに更新している。



Instagramはこちらから

- ・ロゴマークを作成（鶴崎工業高等学校 佐藤大作先生作）



※無断転載を禁じます

【講座運営】

	日	内 容	受講者数
6月	1 土	開講式	6
	11 火	アジサイを作ろう	5
	18 火	好きな歌を紹介しよう①	3
	25 火	好きな歌を紹介しよう②	3
7月	9 火	折り紙を使って①	3
	13 土	コーヒーを淹れよう	4
	16 火	好きな歌を紹介しよう③	3
	23 火	かき氷を作ろう	3
	30 火	かたろうえ	4
8月	3 土	ZUMBAを楽しもう	3
	20 火	好きな歌を紹介しよう	5
	27 火	<台風接近のため中止>	—
9月	7 土	お金について考えよう①	3
	10 火	卓球を楽しもう①	5
	17 火	お月見団子を作ろう	5
10月	5 土	お金について考えよう②	1
	8 火	ハロウィングッズを作ろう	5
	15 火	卓球を楽しもう②	5
	22 火	ハロウィंकッキーを作ろう	5
11月	2 土	相談	1
	12 火	折り紙を使って②	4
	17 日	(大在公民館出前講座) 織り込み模様を作ろう	4
	19 火	好きな歌を紹介しよう④	5
12月	26 火	蒸しパンを作ろう	7
	14 土	造形活動(粘土)	4
	15 日	(西部公民館出前講座) クリスマスリースを作ろう	7
	17 火	茶道体験	6
1月	24 火	クリスマスリースを作ろう	6
	14 火	絵馬に願い事を書こう	5
	21 火	好きな歌を紹介しよう⑤	6
	28 火	身体を動かそう(卓球・体操・ストレッチ)	8
2月	29 水	さくらの杜高等支援学校出前講座 ZUMBA、ドローン	31
	1 土	相談活動	0
7月	7 金	由布市支援者研修で講話・助言	27

通常講座 土曜日… 7回

火曜日… 21回

出前講座… 3回(公民館2回、高等支援学校1回)

支援者研修… 1回(由布市)

計33回



< 初めての茶道 自分で点てて振る舞います >



< 卓球 ダブルスを楽しめるようになりました >

④ 成果と課題

- 受講者たちはとても楽しみに毎週通ってきており、受講者数も少しずつ増加してきた。交通手段としては
②大分駅からバスや徒歩 ②自宅から自家用車を運転
③保護者の送迎 である。
- 参加のきっかけは、これまで受講していた方やその保護者からの紹介、公的機関でチラシを見て、公民館出前講座でOUCを知り興味を持ったということである。口コミの大切さがわかる。
- 通常講座の内容は、創作・音楽・運動・料理とバランスが取れた構成である。受講者の「やってみたい」という声も取り入れ、実施した。講師は適切な声掛けや支援ができる方をお願いしている。
- 公民館出前講座も好評だった。「休みの日にこういう場があるとありがたい」という声があった。
- 「お金について考えよう」では、家計を管理することの重要性を伝え、家計簿アプリで支出を記入してみるという試みを行ったが、受講者は少なく、難しいようだった。方法や内容を工夫していく必要がある。

⑤ 今後の展望

特別支援学校との連携を強化し、在学中にOUCを知り体験してもらう機会をつくりたい。また、現在のスタッフ(基本2人)では受け入れ人数も限られるので、講師やボランティアを養成・確保していく必要がある。

(4)「かたろうえ大分」及び動画教材

① ウェブサイト開設の目的

令和4年度に実施したアンケート結果から、障がいのある方の生涯学習に関する情報が十分に集約されていないことや、当事者や保護者、支援者は「身近に生涯学習情報がない」と感じていることが分かった。この状況を踏まえ、県内の生涯学習に関する情報を一元化するウェブサイトを開設することで、より充実した学習機会の提供を目指した。

② 掲載内容

イベント一覧	県内の、障がい者が参加できるイベントやプログラム情報。ジャンル（スポーツ・健康、アート・音楽等）や地域で自分に合ったイベントが検索可能。
団体一覧	県内の団体の一覧。ジャンルで自分に合った団体を手軽に検索可能。活動内容や問合せ先の他、活動方針等を「ひとことメッセージ」として紹介。
国や県内の取組	文部科学省の取組情報、大分県の取組情報、行政職員向けの研修情報等を掲載。
その他	学習動画、リンク集

*「学びの場」を探している方向けの情報と、行政職員向けの情報を掲載している。

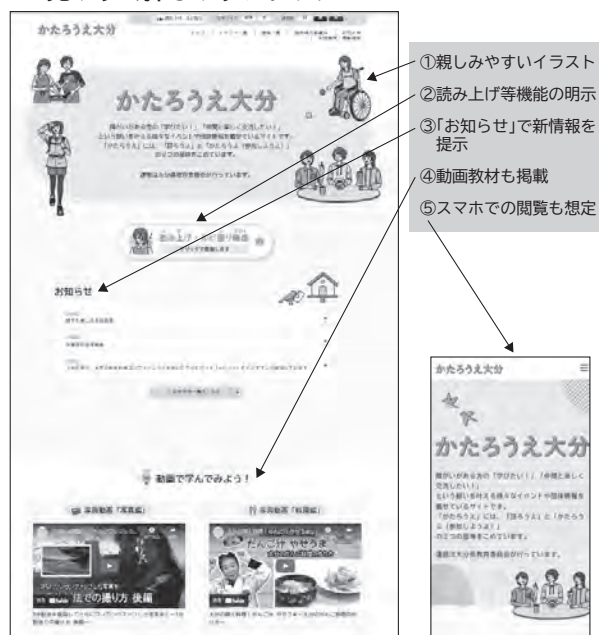
③ 情報収集・広報の工夫

- ・情報提供フォーム（様式）を作成し、市町村の生涯学習所管課や障がい福祉所管課、連携団体に情報提供依頼。
- ・サイト内にも問合せフォームを作成し、団体から個別の問い合わせが可能になった。
- ・大分県HPのトップページに「かたろうえ大分」の情報を掲載（下図）



④ ウェブサイト運用上の工夫

A. 見やすく探しやすいトップページ



< 「かたろうえ大分」トップページ > < スマホ版 >

イ. アクセシビリティへの配慮

「情報保障」の観点から、読み上げ・ルビ振り機能、文字サイズ変更機能、背景色変更機能を設けている。さらに、行政用語など難しい言葉を使わずに、「やさしい日本語」を使用するようにしている。

⑤ 動画教材制作

冒頭のアンケート調査で明らかになった「自宅での学習」「インターネットを使つての学習」のニーズの高さに対応するために、学習動画を2種類、各3本制作した。内容は、視聴者が興味を持てるもので、かつ生活を豊かにする「食」と「写真の撮り方」にした。

⑥ 成果と課題、今後の展望

更新はこまめに行っており（令和6年度は117回）、閲覧者数も月平均690人と開設当時より増加している。また、実際に「かたろうえ大分」で見つけた人の参加があったとイベント主催者から報告もあるなど、障がいがある方と学びの場をつなぐ効果は現れ始めている。一方、まだ認知度は高くないので、より一層内容の充実と周知に力を入れたい。

(5)「共に学び、生きる共生社会コンファレンス～おおいたでかたろうえ！～」

① コンファレンス（実践交流会）の目的

障がい者の生涯学習活動の関係者が集い、学びの場づくりに関する好事例の共有や障がい者の生涯学習活動に関する研究協議等を行うことで、障がい理解の促進や、参加者同士の学び合いによる支援者の育成、障がい者の学びの場の充実を目指す。

「かたろうえ」というのは、「語ろうよ」と、大分弁の「一緒にやろうよ」「仲間に入ろうよ」いう意を掛けている。

② 令和4年度コンファレンス

日時：令和5年2月4日(土)

場所：別府市市民会館

参加者：137名（会場73名、オンライン64名）

内容：

＜開会行事＞ オープニングアトラクション
「ヨカたの」による演奏

＜施策説明＞ 文部科学省及び大分県の実践発表

＜実践発表＞

テーマ①「青少年教育施設での学び」

テーマ②「公民館におけるプログラムの開発」

テーマ③「ボランティア・支援者の養成」

＜基調講演＞

「知的障害のある人の生涯学習の在り方～大分県の取り組みから～」

大分大学教育学部教授 衛藤 裕司氏

＜シンポジウム＞

「学校卒業後の学びの輪を広げるために」

【成果と課題】

○大分県の実践や先進事例を全国に発信するという点で効果的だった。

○県外の先進地（愛知県春日井市、兵庫県朝来市）のマインドを学ぶことができた。

○「ヨカたの」の演奏が素晴らしかった。障がいがある方の学びの成果発表の場という意義も大きい。

○講演は、県内の様々な取組の意義や成果をわかりやすく評価するものだった。

○チラシとポスターに障がい者アートを取り入れ、会場でもアート展示を実施した。

●もっと多くの特別支援教育の関係者（教職員や大学教員等）が来るとよい（広報のてこ入れ）。



＜ シンポジウムの様子 ＞

③ 令和5年度コンファレンス

日時：令和6年1月21日(日)

場所：コンパルホール 文化ホール（大分市）

参加者：106名（会場74名、オンライン32名）

内容：

＜開会行事＞ オープニングアトラクション

「レッツダンスでガッツ元気の会」による
パフォーマンス披露

＜施策説明＞ 文部科学省及び大分県の実践発表

＜講演＞「障がいのある人の『第3の学びの扉』を開く
ーライフワイドの生涯学習」

鳥取短期大学幼児教育保育学科

教授 國本 真吾 氏

＜実践発表＞

①「大分市社会教育委員会の取組～令和2・3年度の研究
から実践へ～」

②「地域につなぐ ～共に前へ、「共生コース」の取組～」

③「誰もが楽しく学べる機会の創出～ゆふぽきらきら教
室の取組～」

＜シンポジウム＞

「社会人のためのサードプレイスづくりに必要なこと」

【成果と課題】

○「レッツダンスでガッツ元気の会」による生き生きと
した演技が素晴らしかった。

○國本教授の講演は、障がいがある方にとって卒業後に
学び続ける意義や必要性について、具体的事例を挙げ
ながら分かりやすく説くものであり、この事業の重要
性を確認できた。

●もっと多くの特別支援教育の関係者（教職員や大学教
員等）が来られるよう、平日や土曜日開催を検討する
とよい。

●参加者同士の交流の場や障がいがある方が関わる場面
を増やすべきである。



＜ レッツダンスでガッツ元気の会によるダンス ＞

④ 令和6年度コンファレンス

日時：令和7年1月25日(土)

場所：由布市庄内公民館

参加者：78名（会場58名、オンライン20名）

内容：

- <開会行事> オープニングアトラクション
臼杵風車おながく倶楽部（歌と演奏）
- <施策説明> 文部科学省及び大分県取組
- <実践発表>

①モデル公民館の取組

「中津市生涯を通じた障がい者の学び支援事業『まなびば』の取り組み」

山本 健吾 氏（中津市生涯学習センターまなびん館センター長）

②大分大学生涯学習講座の取組

「障がい者の学ぶ大学公開講座の目指すものとは」

岡田 正彦 氏（大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授）

③おおいたユニバーサルカレッジの取組

「居場所づくりと学びのための第一歩」

松尾 卓也 氏（ヨカたの 代表）

山村明日香さん（OUC受講者）

<座談会>

「学びを届けるために必要なこと」

<ファシリテーター>

高橋 徹弥 氏（大分大学教職大学院 准教授）

<登壇者>

- ・ 莊司 壽子 氏（社会福祉法人共生荘 障がい者サポートセンター三角ベース 理事長）
- ・ 橋本 好美 氏（ヨカたの支援スタッフ／オンたの代表）
- ・ 大渡 克教 氏（大分大学教育学部附属特別支援学校 PTA会長）

<講評>

堤 英俊 氏（都留文科大学教養学部学校教育学科教授 文部科学省アドバイザー）

【成果と課題】

○3年間の事業実施状況と取組拡充の推移についてお伝えすることができた。

○アンケート結果は概ね好評であった（下表）。



○アンケートの記述でも「このような素晴らしい取組を継続し、もっと広げてほしい」という意見が多く見られた。

○OUC受講者の山村明日香さんが登壇し、思いを話してくれたことで、「障がいがある方の主体的参加」が実現できた。彼女と「ヨカたの」松尾代表の掛け合いを見て、心の通い合う素晴らしい活動をしていることを感じた参加者が多かった。

○アートに加えモデル公民館での活動写真を初めて展示し、視覚的に取組を伝えた。



< 実践発表「OUCは楽しい！」と話す山村さん >

- 3時間で行うにはプログラムを詰め込みすぎた。もっと余裕のある時間配分が必要だった。
- 庄内地域の住民や公民館関係者へのメッセージ等、庄内公民館で行う意義が伝わるようにするべきだ。
- 参加者同士が交流する場面がまだまだ少ない。

⑤ 今後の展望

コンファレンスは1年の集大成の場かつ関係者交流の場という大きな意義があることを認識し、もっと多くの方に参加・交流してもらえる場へと発展させていく必要がある。



< 会場ロビーでのアート・写真展示 >

Ⅲ

成果と課題、 今後の展望



成果と課題、今後の展望

事業実施により得られた成果・効果

①社会教育、障がい福祉、特別支援教育関係者の連携体制の強化

→例) ○「青少年の家ワンデイキャンプ」実施において、市町村の障がい福祉所管課、自立支援協議会と協議し、事業所に周知

○「特別支援学校出前講座」の講師選定やプログラム実施について、県身体障害者福祉センターと協働

○「特別支援学校出前講座」に市町村の障がい福祉所管課や自立支援協議会等が参加し、それぞれの取組を紹介

②大学や社会教育関係施設（公民館、青少年の家）、特別支援学校における講座数・受講者数の増加及び講座内容の発展

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	増 減 (R4⇒R6)
大分大学生涯学習講座	回 数	6	5	4	-2
	受講者数	4	13	10	+6
青 少 年 の 家 ワンデイキャンプ	回 数	4	8	7	+3
	参加者数	111	190	109	-2
モデル公民館・図書館	実施自治体数	1	3	6	+5
	回 数	5	14	31	+26
	参加者数	38	154	340	+302
特別支援学校出前講座	実施校数	3	5	7	+5
	参加者数	41	111	151	+110

○大分大学生涯学習講座⇒大学ならではの教育的リソースを提供（環境、講師、学生ボランティア）
学外の機関とも連携し、地域での体験活動も実施した。

○青少年の家ワンデイキャンプ⇒青少年の家ならではの体験型プログラムを実施
プログラムを選択制（散策or創作活動）にすることで、受講者の意思を尊重することができた。

○モデル公民館・図書館⇒自立支援協議会や保護者会などと連携し、綿密に企画・準備
既存のプログラムにとらわれず、新しい学び（モルック等）やニーズに応じた学びを模索し、講座後の「生きる力」の育成や地域社会での自立・共生も見据えた内容にした。

○特別支援学校出前講座⇒市町村の教育委員会や公民館、障がい福祉所管課と連携し、地元の「学びの場」紹介
「ドローンサッカー」や「絵手紙」など、生徒の興味関心に応じた選択制にすることで、生涯学習の楽しさを伝えることができた。

③専用情報サイト「かたろうえ大分」のユニバーサル化と動画教材制作による、学びへのアクセス保障と新たな学びの形を提供

○音声読み上げ、ふりがな、問合せ機能と動画教材追加、情報提供先増加等による、閲覧者数の増加（アクセス数は前年比62%増）

④社会教育と福祉の連携を通じた地域人材の発掘と活用による、「障がい者の生涯学習」への理解者・協力者の増加

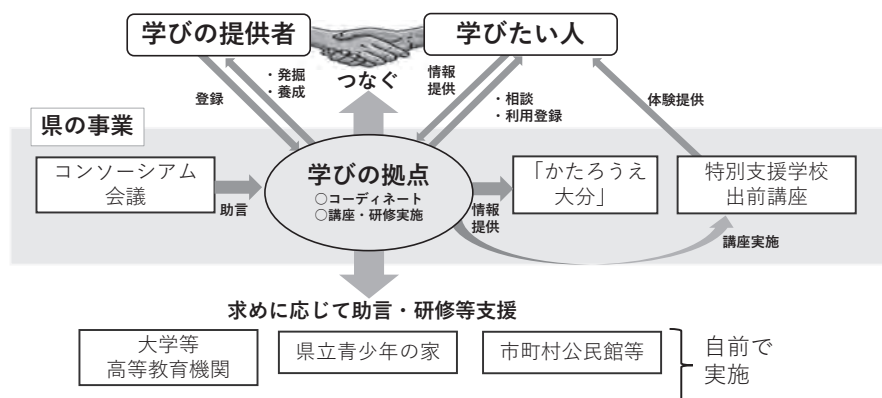
⑤学び・交流の拠点「おおいたユニバーサルカレッジ」を開講

課題

- 取組を実施する施設数や講座数は順調に拡大してきたと言えるものの、参加者や支援者（ボランティア）の確保に苦労している実態がある。人が集まらない理由について、講座内容の妥当性（来たいと思える内容になっているか）やアクセス面、費用面の負担等も加味しながら、当事者や保護者の意見を聞いて分析する必要がある。支援者については、「共に楽しみ・学ぶ」というスタンスを持ちつつ、必要に応じて支援するという姿勢が必要であり、研修等で啓発していく必要がある。
- まだ全県的な取組の広がりには至っていない（P58県地図参照）。地域における社会教育の拠点は公民館であり、公民館で地域の方々と触れ合うことは、災害時に安心して公民館避難できること、ひいては「命を守ること」につながるということを社会教育関係者は自覚し、通常の公民館講座に障がいがある方を受け入れる等、既存の取組を活用して講座や研修を実施してみることが求められる。
- 専用ウェブサイト「かたろうえ大分」の認知度がまだ低い。あらゆる社会教育関係のイベントや研修において周知するだけにとどまらず、生徒が持っている端末にブックマークを登録してもらう等、より積極的な周知活動が必要である。

今後の展望

<イメージ図>



*県の運営する「学びの拠点」が「学びの提供者」と「学びたい人」をつなぐ「ハブ」＝「ワンストップ相談施設」としての機能を持つ。

*「コンソーシアム」及びウェブサイト「かたろうえ大分」、「特別支援学校出前講座」と有機的に連動しながら取組を推進する。

*市町村や大学等は自前で取組を実施し、求めに応じて県は助言等の支援を行う。

IV 資 料



**令和6年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る
地域連携コンソーシアム設置要綱**

令和6年4月25日
大分県教育庁社会教育課長決定

（目的）

第1条 学校卒業後における障がい者の学びに対する支援の充実のため、関係者が連携し、本県の実態に応じた展開方策等について協議する組織として「地域連携コンソーシアム」（以下、「コンソーシアム」という）を設置する。

（所掌事務）

第2条 コンソーシアムは、以下の内容について協議・情報共有を行うものとする。

- (1) 本県の実態に応じた事業の方向性と展開方策に関すること
- (2) ニーズに応じた学習・体験プログラムや講座等の実践や開発に関すること
- (3) 学びを支援する人材の育成や障がい理解の促進方策に関すること
- (4) 本事業に係る情報の収集や提供に関すること
- (5) その他、本事業の推進に関すること

（委員）

第3条 コンソーシアムは、教育、福祉、労働等に関する機関・団体の代表者や有識者等、別表の委員をもって構成する。

2 コンソーシアムの委員の任期は、委嘱した日から当該年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

3 委員は、大分県教育委員会教育長が委嘱または委任する。

（組織）

第4条 コンソーシアムに、座長、副座長を置く。

2 座長は、コンソーシアムを代表し会務を総括するとともに、コンソーシアムの議長となる。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときはその職務を代理する。

4 座長、副座長は委員の互選により選出する。

（会議）

第5条 コンソーシアムは、大分県教育委員会教育長が招集して運営する。

2 コンソーシアムは、必要に応じて委員以外の者に関係者等の出席を求め、その説明または意見を聴くことができる。

（実施期間）

第6条 令和6年4月25日から令和7年3月31日までとする。

（事務局）

第7条 事務局を教育庁社会教育課に置き、コンソーシアムに関する庶務を行う。

（その他）

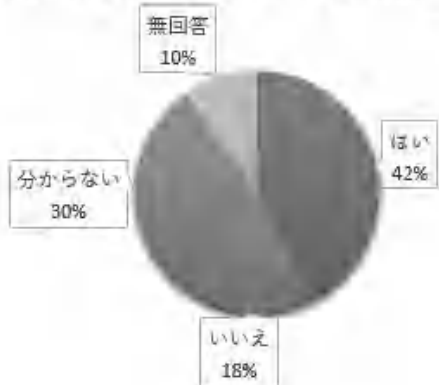
第8条 この要綱に定めるもののほか、コンソーシアムに関し必要な事項は別に定める。

附則 この要綱は、令和6年4月25日から施行する。

令和4年度「障がい者の生涯学習」に関する実態およびニーズ調査（抜粋）

【対象】 ①特別支援学校高等部3年生、保護者、教職員 ②公立社会教育関係施設
③市町村の生涯学習担当課 ④障がい者就労支援施設
【内容】 学校以外の学びについての実態やニーズ、学びをするうえで必要なもの

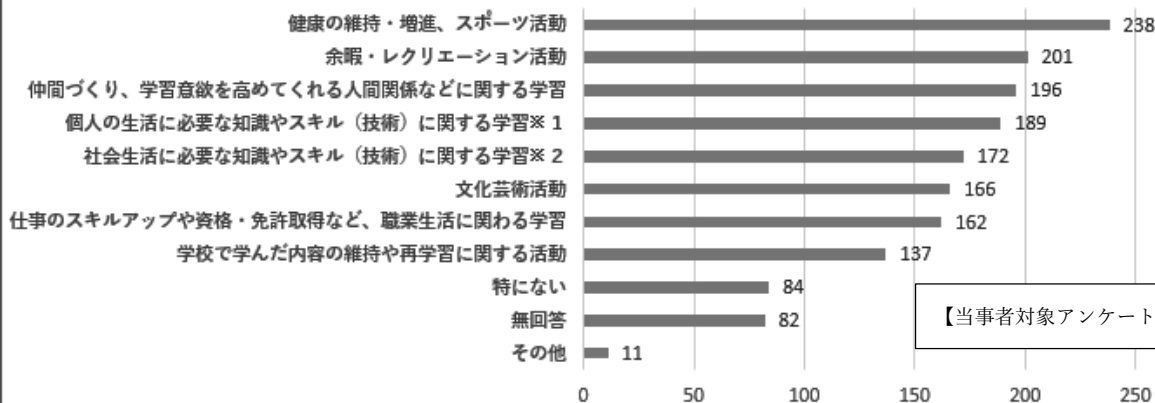
学校卒業後も何らかの学びを続けたいと思っていますか



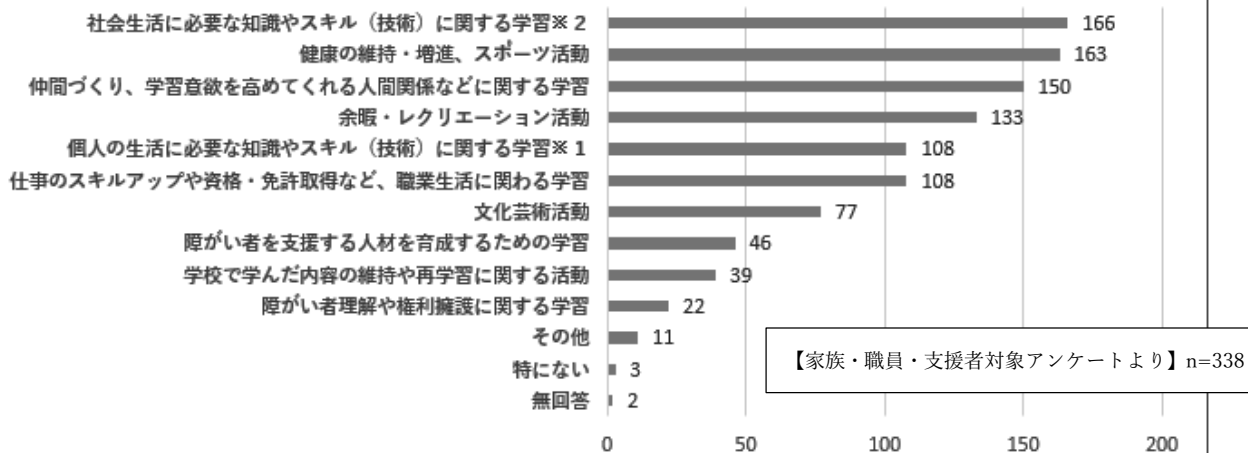
10代～40代の障がいがある方384名が回答。
特に10代は、49%（149名中73名）が「はい」と回答。学びに対する意欲の高さが伺える。
在学中に、卒業後の学びについて考えたり、体験したりする機会の提供が必要である。

I 学びの内容について

①今後してみたいと思う学びはどれですか。（複数回答可）



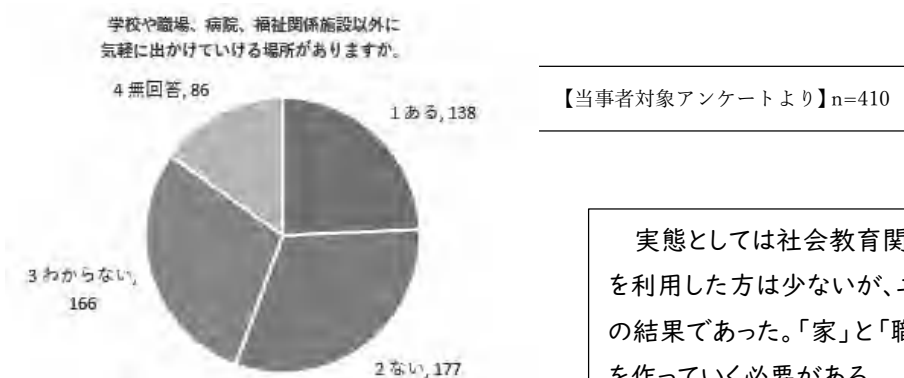
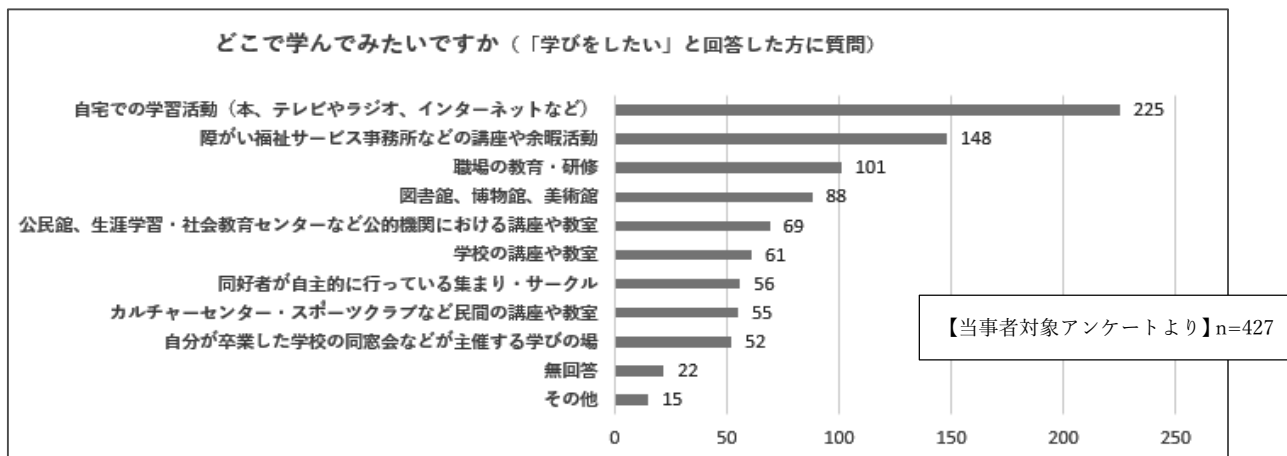
②障がいがある人にとって、どのような生涯学習活動があると良いと思いますか。（優先度の高いものを3つ回答）



※1：料理、栄養、医学・健康法、裁縫、編み物、家庭生活、防災・防犯、介護、幼児教育など

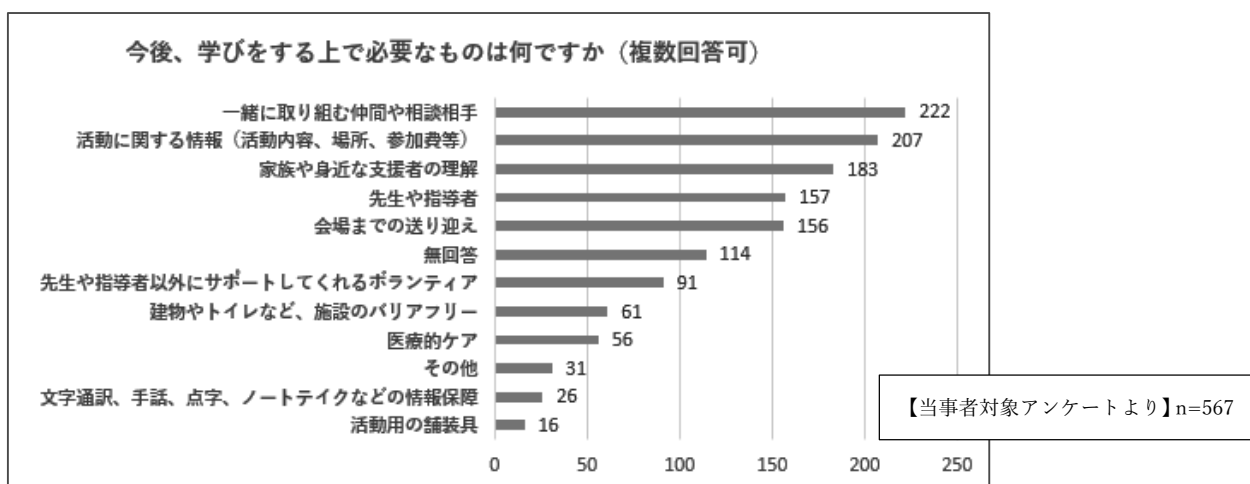
※2：銭の管理、契約、資格や免許に関すること、税や社会保障、政治、法律、ボランティア活動のために必要な知識、集団生活でのルール、マナー、ITスキル、情報モラル

Ⅱ 学びの場について



実態としては社会教育関係施設（公民館や図書館等）を利用した方は少ないが、ニーズとしては高い。支援者も同様の結果であった。「家」と「職場」以外の「第3の居場所」「学ぶ場」を作っていく必要がある。

Ⅲ 学びに必要なもの



<分析>学校卒業後に学ぶうえで必要とされているのは、①一緒に取り組む仲間や相談相手②活動に関する情報③周囲の理解④指導者やボランティア だと言える。施設側からすると「まずはバリアフリートイレなど、設備をととのえてからでないと講座は実施できない」と思いがちであるが、そうではないことがわかる。また、情報入手手段はテレビやインターネットが多いことから、事業や講座の広報手段としては、紙媒体と電子媒体の両方を使っていくことが有効であると思われる（現状としては、HPやSNSを活用している社会教育施設は45%である）。

（報告書の全文については、「かたろうえ大分」の「県の取組」の項目に掲載）

え い が じ ょ う え い か い バリアフリー映画上映会

2024 年

10/12
(土)

バリアフリー映画とは、字幕表示(日本語字幕)と音声ガイド(副音声)を付け、
視覚や聴覚が不自由かたも一緒に鑑賞できる映画

て ん し と し ょ か ん 『天使のいる図書館』

出演 小芝 風花、横浜 流星 ほか
開演 10:00 (開場 9:30) 約110分間

字幕あり・音声ガイドなし

さ く ら い ろ か ぜ さ 『桜色の風が咲く』

出演 小雪、田中 偉登 ほか
開演 13:30 (開場 13:00) 約120分間

字幕あり・音声ガイドあり

場所 杵築市立図書館 多目的室
定員 午前・午後 先着50名

無料
申し込み不要
どなたでも！

みて きいて さわって かいて

としょ てんじ たいけんかい バリアフリー図書展示・体験会

2024 年

10/2(水)～
28(月)

バリアフリー図書とは、特性に合わせて読みやすくわかりやすくしたもの

大活字本 LLブック 布絵本

仕掛け絵本 デイジー図書 など

場所 杵築市立図書館 知識の広場

＜モデル公民館（中津市）参加者募集チラシ＞

とも まな ひろ せかい
共に学んで 広がる世界！ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

令和6年度 中津市生涯を通じた障がい者の学び支援事業

主催：中津市教育委員会

中津市では、障がいがある、ないに関わらず、すべての人が健康で生きがいのある生活が送れるために

「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる生涯学習の場をつくっています。

学校や勤め先以外でも楽しいことやためになることを経験して、自分をもっと高めませんか？

いろいろな人と知り合いになりませんか？みなさんのご応募をお待ちしています！



***対象** 知的障がい・発達障がいがある方（高校生以上）

※年間を通しての活動になりますので、すべての活動に参加可能な方が望ましいです。

***定員** 15名 ※応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果は後日全員にお知らせします。

***申し込み方法** お電話かFAXでお申し込みください。その際、下記の事項が必要となります。

- ①受講者氏名（ふりがな） ②受講者年齢（生年月日） ③受講者お勤め先または学校（学年）
 ④住所、郵便番号 ⑤保護者氏名 ⑥保護者電話番号 ⑦食物アレルギーの有無と種類

電話・FAX番号 0979-22-7637（中津市生涯学習センター）

（お電話での申し込みは、月曜日～金曜日の午前9：00～午後8：00の間をお願いします）

***申込期間** 令和6年5月13日（月）～5月24日（金）

回	開催日	時 間	場 所	内 容	参加費
第1回	6月2日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第2回	7月7日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	そば打ち	1家族1,000円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第3回	8月25日（日）	10:00～12:00	まなびん館	和菓子づくり	1家族1,000円
第4回	9月1日（日）	10:00～14:00	まなびん館	パンづくり	1家族1,000円
第5回	9月29日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第6回	11月3日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	そば打ち	1家族1,000円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第7回	12月1日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第8回	1月5日（日）	10:00～15:00	まなびん館	パンづくり	1家族1,000円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料
第9回	2月2日（日）	10:00～15:00	三光コミュニティーセンター	かんたん料理	受講者のみ500円
			三光総合運動公園グラウンド	ランニング	無料

- 参加費（食材費）と若干の保険料がかかります。
- 1家族とは、受講者と保護者1名のことです。
- 活動時の飲料は、それぞれで持参していただきます。
- 活動場所への送迎は各自をお願いします。



お問合せ

中津市生涯学習センター 山本
 携帯：090-5289-3781

令和6年度大分県「生涯を通じて障がい者の学び支援事業」
大分大学生涯学習講座「大学で学ぶ楽しさを発見しませんか」実施要項

1 趣 旨（目 的）

障がい者の学びの推進の一環として、大学生涯学習講座を実施する。本講座は、障がいのある方（特別支援学校高等部3年生、卒業生など）を対象とし、学ぶ楽しさと学びを通じたつながりや生活空間の拡大など「つながり、広げる」ことを主なコンセプトとして実施する。今年度の講座は大分大学教員による大学らしい講座を生涯学習講座（本体講座）として実施するが、既受講者を中心に学習関心や社会的活動などの継続・発展を目指した「発展講座」を個別のニーズを聴取しながら実施する。

2 主 催

大分大学教育マネジメント機構、大分県教育委員会

3 期 日

令和6年11月2日、23日、12月7日、21日

（各土曜日、11月は10：00～12：00、12月は13：00～15：00で開催予定）

※令和6年11月2日分は、暴風警報発令のため、令和7年2月8日に延期

4 会 場

大分大学旦野原キャンパス（教育学部技術・美術棟など）

5 対 象

- ・高等学校あるいは特別支援学校高等部を卒業している方、特別支援学校高等部3年生の方
- ・療育手帳を持っている方（持っていない場合でも、ご相談ください）
- ・プログラムの方針を理解し、学ぶ意欲がある方
- ・言語によるコミュニケーションをとる手段がある方
- ・実際の読み書きの力がある方
- ・プログラムに対する家族の理解がある方
- ・自力通学が可能の方

6 参加料

無料（講座会場までの交通費や講座での飲み物などについては自己負担）

7 各回の内容

裏面に掲載

8 その他

お問い合わせがありましたら裏面の担当までご連絡ください。

＜生涯学習講座各回の内容＞（内容・場所は仮のもので今後確定します）

第1回「アート・ワークショップ①」

11月2日（土）10：00～12：00（13：00）→令和7年2月8日に延期

講師：教育学部 廣瀬 剛 教授

用意した多様な手法（色鉛筆、水彩絵の具、貼り絵、バーニングペン、ホットボンドなど）を自由に選択し、作品作りを行います。講座終了後、希望者は学祭を大学生ボランティアと一緒に見て回ります。

第2回「アート・ワークショップ②」

11月23日（土）10：00～12：00

講師：教育学部 廣瀬 剛 教授

用意した多様な手法（色鉛筆、水彩絵の具、貼り絵、バーニングペン、ホットボンドなど）を自由に選択し、作品作りを行います。製作に先立ち、会場の周囲を一緒に散策して作品の素材を見つけて製作します。

第3回「豊後絞り（藍染め）を学び体験してみよう①」

12月7日（土）13：00～15：00

講師：教育学部 都甲 由紀子 准教授

豊後絞りを学び、藍の絞り染めを体験しましょう。布に色と柄をつけてみましょう。

1回目は絞り染めという染め物の模様を作る技法について学び、模様を作るための作業を行います。

第4回「豊後絞り（藍染め）を学び体験してみよう②」

12月21日（土）13：00～15：00

講師：教育学部 都甲 由紀子 准教授

豊後絞りを学び、藍の絞り染めを体験しましょう。布に色と柄をつけてみましょう。

2回目は、1回目の講座で模様を作るための作業を行った布地を藍色に染めます。藍染の学習をしながら、偶然でできる模様も楽しみましょう！

昨年度の「アートワークショップ」の様子

大学の先生や
学生といっしょに
学ぼう！

令和6年度
大分大学
生涯学習講座
受講生募集

11/2[±] 23[±] 10:00~12:00

アートワークショップ①②

教育学部 廣瀬 剛 教授

12/7[±] 21[±] 13:00~15:00

豊後絞り（藍染め）を学び、
体験してみよう①②

教育学部 都甲 由紀子 准教授



POINT 1

楽しく深い学び

大学ならではの専門的で深い学びがあります。参加者それぞれのペースを尊重して活動します。



POINT 2

支援者とボランティア

特別支援教育の経験豊かな先生と、大分大学の学生ボランティアがあなたの学びを支えます。



POINT 3

仲間づくりと交流

趣味や仕事のことについて話をしたり、ゲームをしたり…リフレッシュできます♪

対象 18歳以上の障がいがある方
(詳しくは裏面)

参加方法

できるだけ4回すべてを受講するのが望ましいですが、1回のみの受講もOKです。

定員 10名

受講料

無料(ただし、交通費や飲み物代は自己負担)

問い合わせ先

大分大学教育マネジメント機構
基盤教育センター

097-554-7641

(9:00~17:00)

✉ kyokikss@oita-u.ac.jp

令和６年度「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る
九重青少年の家「このえワンデイキャンプ」第１回実施要項

- 1 趣 旨 障がい者の生涯学習の推進の一環として、体験活動の拠点である県立青少年の家において県内の就労支援施設の利用者・職員を対象とした創作活動や体験活動を実施することにより、障がい者の余暇活動の充実に寄与するとともに、主催側の障がい者理解や支援力の向上を図る。
- 2 主 催 大分県教育委員会
- 3 期 日 令和６年１２月７日（土）
- 4 会 場 大分県立九重青少年の家 〒879-4911 玖珠郡九重町大字田野 204 番地 47
Tel : 0973-79-3114 FAX : 0973-79-3115
- 5 対 象 玖珠町・九重町在住の障がいがある方 20名
九重町健康福祉課、就労支援施設の職員等 3名 計23名（予定）

6 日 程

時 間	内 容	場 所
9 : 0 0 9 : 5 0	玖珠町役場出発（バス） 青少年の家 到着	
1 0 : 0 0	開会行事	視聴覚室
1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 5 0	活動 ・工作（ネイチャーアート製作）	研修室
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼 食	研修室または 研修室南広場
1 3 : 0 0 ~ 1 3 : 5 0	プラネタリウム	プラネタリウム室
1 3 : 5 0 ~ 1 4 : 5 0	（晴天時）展望台散策 （雨天時）焼き板工作	
1 4 : 5 0	閉会行事	視聴覚室
1 5 : 0 0 1 5 : 5 0	青少年の家 出発 玖珠町役場 到着	

- 8 そ の 他 活動に伴う参加者の教材費・保険料は大分県が負担する。

かかぢワンデイキャンプ 参加団体募集！

香々地青少年の家で、楽しい活動をしませんか？

自然散策をしたり、工作をしたり、プラネタリウムで星をみたり・・・
きれいな空と山に囲まれて、リフレッシュしましょう！

＜行事名＞ 「かかぢワンデイキャンプ」

＜主 催＞ 大分県教育委員会社会教育課、県立香々地青少年の家

＜実施日＞ 令和6年10月初旬から12月初旬までの間
※希望に応じて香々地青少年の家と相談の上、決定します。

＜申込期限＞ 令和6年8月末
※応募多数の場合、先着順となりますので早めの申込みをお勧めします。

＜活動内容＞ ハイキングや工作など、色々な活動ができます。
参加する団体と相談しながら決めます。

＜費 用＞ 参加費・材料費は無料です。貸切バス代は**要相談**
※昼食は各自、準備をお願いします。
※貸切バス代は新規利用団体を優先します。

昨年実施
した活動
→



美しいプラネタリウム鑑賞



工作活動(写真立て作り)



自然散策(ハイキング)



軽スポーツ(ペタンク)

「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る社会教育施設講座支援者研修
ワークシート

＊実際の講座計画・運営を想定してどのような点が工夫できるか考えてみましょう。

＊想定講座：「カレーライスを作ろう！」

＜事前準備＞

項目	工夫
講座のお知らせ (参加者募集) ⇒方法や内容	
講師やボランティアへの依頼	
会場・調理器具・ 具材準備	
参加希望者への 対応	

＜講座当日＞

項目	工夫
受付	
あいさつ・説明	
調理 カレーライス	
その他	

＜他の班の工夫を聞いて、気づいたことを書きましょう＞

「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」に係る

社会教育施設（公民館等）講座支援者研修（日田市会場）実施要項

- 趣 旨 「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業実施委託要項」（令和5年2月17日文科科学省生涯学習制作局長決定）に基づき、障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修を実施することにより、事業の推進と効果的な実施を図る。
- 開催日時 令和6年5月23日（木）13：30～15：30
- 会 場 日田市複合文化施設 A0SE
- 主 催 大分県教育委員会
- 対 象 者 障がいがある方を対象とした講座やプログラムの運営に携わる方
（日田市教育委員会社会教育課職員、公民館関係職員、ボランティア等）

6. 日程および内容

時 間	内 容
13：20～13：30	受付
13：30～13：40	開会行事
13：40～14：30	講義 「障がいの有無にかかわらず誰もが楽しく活動に参加するには」 講師 大分大学教職大学院 准教授 高橋 徹弥 氏
14：40～15：30	ワークシヨップ 「講座・プログラム運営の実際」 講師 大分大学教職大学院 准教授 高橋 徹弥 氏

6月
開講

おおいたけんきょういくいいんかい しょうがい つう しょう しゃ まな しえん じぎょう
大分県教育委員会「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」

おおいた利用者募集

ユニバーサルカレッジ



♪ほっと一息つきませんか？♪

しょうがいかたがっこう そつぎょう
障がいがある方が学校を卒業したあとに、
なかま こうりゅう まな ばしょ
仲間と交流したり、学んだりできる場所です。

しごと せいかつ なや そうだん
仕事や生活の悩みについての相談もできます。

とくべつしえんがっこう きんむけいけん ゆた せんじん
特別支援学校での勤務経験豊かな専任スタッフ

あたた むか
が温かくお迎えします。



めいしょう
＜名 称＞おおいたユニバーサルカレッジ

にち じ まいしゅうかようび
＜日 時＞毎週火曜日 16:30～18:00

だい とようび
第1土曜日 8:30～14:00

ば しょ けんりつ もりこうとうしえんがっこう おおいたしひがしおおみち ちょうめ
＜場 所＞県立さくらの杜高等支援学校（大分市東大道 2丁目5-23）

※さくらの杜高等支援学校に問い合わせはしないでください。

ない よう しごとがえ ちや の
＜内 容＞仕事帰りなどにお茶を飲みながらほっとできる場です。

せいかつ ゆた こうざ こうざとう おこな
生活を豊かにする講座（スマホ講座等）も行います。

たいしょう しょうがいかた げんそく さいいじょう
＜対 象＞障がいがある方（原則18歳以上）

さんかひ えんていど の ものだい こうざ ざいりょうひ
＜参加費＞500円程度（飲み物代・講座の材料費など）

とあ わせ・もうし込みきき
＜問い合わせ・申し込み先＞ヨカたの



ラインでのお問い合わせはこちら
（ヨカたの公式ライン）

✉ info@yokatano.com

「おおいたユニバーサルカレッジ」は、県教育委員会が「ヨカたの」に委託して実施します。

「ヨカたの」について

団体名「ヨカたの」の由来…「余暇を楽しく過ごそう！」
だい ひょう まつおたくや ねん ねん かつ とくべつしえんがっこうとう きんむ
代 表 松尾卓也 1988年～2024年3月 特別支援学校等で勤務
ねん なかま せつりつ
2006年に仲間とともに「ヨカたの」を設立

登録者数：70名 ボランティアスタッフ：50名（令和5年5月現在）

活動内容：大分市を拠点に、サッカー、音楽、山登り、美術、農業、

パン作り、相談活動などを実施しています。

発行：大分県教育庁社会教育課 ☎097-506-5526



「ヨカたの」の活動はこちら



※写真はイメージです。

けんがくうけつけちゅう

見学受付中！

しょうがい つう しょう しゃ まな しえんじぎょう おおいたけんぎょういくいいんかい
生涯を通じた障がい者の学び支援事業 (大分県教育委員会)

Oita Universal Collage おおいた ユニバーサル カレッジ

OUC だより



インスタみてね！

第6号
＜11月の活動報告＞

12日 造形活動「広げて楽しい切り紙」



19日「好きな歌を紹介しよう！」



新メンバー加入！
うた おど
歌って、踊って、
おお も あ
大いに盛り上がり
ました♡

26日 蒸しパンづくり ～手作りのさつまいもをつかって～



生地をまぜて……



蒸し器にそーっと入れます



ふわふわ蒸しパンの
できあがり！

おおいた ユニバーサル カレッジ

すごい 楽しい できた！

大在公民館(11/17・日)OUCの出前講座

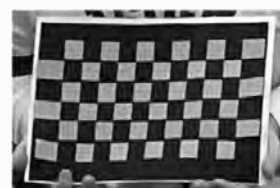


まずは手をぶらぶら。
準備運動をします。
ひらかわせんせい こえ
平川先生の声かけで

リラックス♪



集中して作業します



織り込み模様ことができました！

ヨカたの TV

検索

動画はこちら

♪12月の予定♪

14日(土)10:30～11:30

中野マーク周作さんと
造形活動(粘土)

17日(火)16:30～

茶道体験

24日(火) 16:30～

クリスマスツリーをつくろう
(工作)



「おおいたユニバーサルカレッジ」は、大分県が「ヨカたの」に委託して実施しています。

問合せ:メールまたはLINEからお願いします (平日9時～17時)

メール: info@yokatano.com

⇒ヨカたの公式LINE



地域的な広がり



○ モデル
公民館
のある
自治体

— 市町村
予算で
取り組ん
でいる
自治体

- ・大分市
坂ノ市公民館
- ・臼杵市
野津中央公民館
- ・別府市
中央公民館

障害者の生涯学習支援活動

【大分県】文部科学大臣表彰 過去の表彰一覧

年 度	団体・個人	被表彰者の名称	活動名称	備 考
平成29年度 創設	団体	学校法人後藤学園 楊志館高等学校 ボランティア部	楊志館高等学校ボランティア部	大分市
	個人	河津 知子	かわづ寺子屋「ふくろう」	大分市
平成30年度	団体	ソニー・太陽株式会社	ソニー・サイエンスプログラムを活用した「インクルージョン・ワークショップ」等	日出町
令和元年度	団体	大分県知的障害者施設協議会	大分県ゆうあいスポーツ大会	大分市
令和2年度	功労者・団体	ヨカたの	ヨカたの	大分市
	功労者・団体	アイメイト中津『きさらぎ会』	アイメイト中津『きさらぎ会』	中津市
令和3年度	功労者・団体	社会福祉法人 太陽の家	障がい者スポーツ活動を通じた社会参加推進	別府市
令和4年度	功労者	レッツダンスでガッツ元気の会	知的障がいがある方を対象としたダンスチームの指導	大分市
	奨励者	ギャラリー通り実行委員会	障がい者施設等でのアートワークショップ	国東市
令和5年度	功労者	自立支援センターおおいた	研修等を通じた障がい理解の推進	別府市
	功労者	藤本 正広	障がい者水泳クラブ「あすなろ」指導	大分市
令和6年度	功労者	社会福祉法人 みずほ厚生センター	さぼーとセンター風車「チャレンジ教室」	臼杵市
	功労者	宇佐市自立支援協議会	余暇活動支援「フリースペースそよかぜ」「ピアサポート教室」等	宇佐市

※「功労者」と「奨励者」表彰が分かれたのは令和2年度より

文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」
地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築

大分県「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」 報告書（令和４～６年度）

発行年月 令和７年３月
発 行 大分県教育庁社会教育課
〒870-8503
大分市府内町３－１０－１

